

委員および一般からのご意見

委員からの流域委員会の審議に関する意見、指摘(2005/8/19～2005/9/9)
委員からの意見はありませんでした。

一般からの流域委員会へのご意見、ご指摘(2005/8/19～2005/9/9)

No.	発言者 所属等	受取日	内容
615	伊賀・水と緑の会 代表 森本博氏	05/09/09	「ダムと環境問題についての、意見」が寄せられました。別紙615-1をご参照下さい。
614	自然愛・環境問題研究所 総括研究員 浅野隆彦氏	05/09/08	「オオサンショウウオの涙」が寄せられました。別紙614-1をご参照下さい。
613	伊賀・水と緑の会 佐藤保彦氏	05/09/08	「川上ダムに頼らない治水対策」が寄せられました。別紙613-1をご参照下さい。
612	伊賀・水と緑の会 浜田不二子氏	05/09/08	川上ダムに関するご意見が寄せられました。別紙612-1をご参照下さい。
611	小山公久氏	05/09/07	「残虐な、オオサンショウウオ移転試験、保護池での飼育を即時、中止せよ」が寄せられました。別紙611-1をご参照下さい。
610	自然愛・環境問題研究所 総括研究員 浅野隆彦氏	05/09/07	「『嘘の病 膏育に入る』-岩倉峡疎通量-」が寄せられました。別紙610-1をご参照下さい。
609	永末博幸氏	05/09/06	「流域委員会への期待」が寄せられました。別紙609-1をご参照下さい。
608	南浜漁業協同組合 鳥塚五十三氏	05/08/30	「平成17年7月21日・8月17日淀川水系流域委員会に出席してと委員一般からの意見書を拝見して」が寄せられました。別紙608-1をご参照下さい。
607	山岡久和氏	05/08/30	「天ヶ瀬ダム再開発に伴う資料等について質問」が寄せられました。別紙607-1をご参照下さい。
606	緑と環境をまもる箕面まちづくりセンター 事務局長 岳野興一氏	05/08/22	「余野川ダム中止と猪名川流域の総合治水対策推進について 意見書」が寄せられました。別紙606-1をご参照下さい。
605	自然愛・環境問題研究所 総括研究員 浅野隆彦氏	05/08/22	「又もや 不信・不透明の木津川上流河川事務所！」が寄せられました。別紙605-1をご参照下さい。
604	関西のダムと水道を考える会(代表)野村東洋夫氏	05/08/22	「川上ダムの利水代替案(その2)」が寄せられました。別紙604-1をご参照下さい。
603	伊賀・水と緑の会 畑中昭子氏	05/08/20	「川上ダムはいりません パート3」が寄せられました。別紙603-1をご参照下さい。
598 再掲	自然愛・環境問題研究所 総括研究員 浅野隆彦氏	05/08/03	「岩倉峡の疎通量のことについていつ迄嘘をつき続けるのか」が寄せられました。別紙598-1をご参照下さい。

淀川水系流域委員会木津川上流部会 殿

伊賀の水と緑の会 代表 森本 博

ダムと環境問題についての、意見。

ダムの自然環境に及ぼす影響についての概括は、8月20日に行はれた「住民と委員会との意見交換会（川上ダム）」淀川水系流域委員会で述べているので、今回は別の観点から述べます。

1. プランクトンの発生

ダムを造って水を溜めた場合、当然のことながら、いままで流水だったところが止水となる。

流水ではプランクトンの発生はないが、止（静）水にはプランクトンが発生する。それも急激におこる。ダムの水が悪くなる原因の一つにこれがある。

ダムの水を飲み水に利用するのならば、どういふプランクトンが発生するか、深層はどんな酸素分布を示すダム湖になるかを予測しておかねばならない。しかし、出来上がったダム湖が、いつも同じプランクトンや溶存酸素の分布様式を示すかという、決してそうではない。夏の停滞期と冬の循環期ではダム湖の生物相の動きは違ふし、また、ダム湖は一般には年々富栄養化が進むのであるから、植物プランクトン量も深層での溶存酸素も違ってくる。

植物プランクトン量が多いということは、湖が富栄養な状態にあり湖に流入する汚濁があることを意味している。したがって湖をよい状態で保とうとすれば、もちろん流域からの汚濁物質の流入を阻止しなければならない。

このようなことがすべて、ダム建設後の対応ではなくダム建設を計画する段階で、いったいこの場所にダムを造れば、どういふプランクトンが発生しどれくらい出現するダム湖になるか、またどの程度の貧栄養湖・富栄養湖であるか、年々河川は富栄養化の方に移っていくはずであるが、何年後にどのくらいの進行がおこるか、というようなことを予測しておく必要がある。川上ダムはどうだろうか。

ダム湖の生物相は水の滞留時間で決まる、といわれている。そのダムが流水性が静水性かで生物相に著しい変化がおこる。私の知るかぎりでは、ダムが流水性が静水性かを定める目安は、ダム湖に流入した水がどの程度（時間）滞留するか、ということが決め手になる。

滞留時間の計算は、ダム湖の貯水容量を流入容量で割ったものを便宜的につかっている。そうして、滞留時間が短いものを「ながれダム」長いものを「とまりダム」と、よんでいる。ながれダムととまりダムの境界は、生物学的にはその湖で独自のプランクトンが発生するかどうかという境目である。川のような流水域にはプランクトンは発生しないからである。

実は、何時間水が滞留したらプランクトンが発生するかについては、それぞれ異なった水界で様々である。所謂、熱帯湖（年中水温が4℃以上）に属するダム湖と温帯湖（年中

に水温が4℃以下になることがある)に属するダム湖とでは、当然条件は違ってくる。またダム湖の形態(樹枝状とか・深く細いとか)によって一律でない。また、水質の異なる場合も富栄養水域は貧栄養水域に比べて、はやくプランクトンの発生がみられる。など複雑である。

しかし、日本の400余りのダム湖の滞留時間とプランクトンの関係を整理した結果、だいたいダム湖のいちばん深い部分の湖水の滞留時間が3日を過ぎると、そのダム独自のプランクトンが発生していることがわかった。このことは逆にダム湖にプランクトンが発生しているかどうかで、ダム湖に流入してきた河川水が新しいか古いかの目安をつけることができる。

ダムの水質については、わからん点がまだまだいっぱいあるが、川上ダムの将来はどのように予測計算されているのだろうか。

2. ダムを造らない方向で

河川法が作られてから100年、この1世紀間の河川の水害と治水関係をみてみよう。

水害の形態は大まかにみると、3つのタイプになるように思われる。

A) 土砂の崩壊・流出によるもので、崩壊や地すべり、あるいは土石流などの土砂災害である。最近における水害による死者のほとんどは、この種の水害によっている。

B) 河川の堤防の決壊などによる、洪水氾濫・浸水による水害である。

C) 河川の水位上昇にとともに、小河川や排水路があふれて冠水・浸水をおこす内水災害で、最近の都市水害の大半は内水災害である。

ダムが有効に対応し得る水害は上記のうちBの型の水害に限られる。

川上ダムは果たして必要なのだろうか。よくいわれるように、川上ダムは伊賀全体降雨面積の1/10の集水しか出来ない南端にあり、降雨パターンによっては治水効果ゼロとなる。「28の災害」は戦後の荒廃のときで、本質的には人災であった。国土交通省は歴史的事実を隠蔽し、岩倉峽の狭窄部が著しく流れを阻害したと説明してきたが、これは嘘で岩倉峽は河道水位によっては4000 m³/s以上の疎通力をもっている。上野遊水地と合わせると既往最大規模洪水の1.8倍の出水でも浸水被害は起きない。(浅野論文:これに対する科学的反論は、今になっても国交省関係からは全くなし)

早くダムを造れと言う人々は、市長も移住者も遊水地提供者も「説得に応じたのはダムを造るということであったからだ」「ダムとセット」だと言う。

ダム建設が最初話しあわれてから40年、そのころの討議では環境問題は殆ど議論されなかったと思われる。何歳なら河川法が改正されて「環境への配慮」をうたったのが1997年であるからである。国交省の出先機関はこのことを、ダム推進者に頭をさげて説明し納得してもらおう要がある、環境問題は100年の先まで見通した検討が必要だ、巨大な産業廃棄物を作らぬためにも。

参考にした文献 川の健康診断 森下郁子 著 NHKブックス
ダムと日本 天野礼子 著 岩波新書 等

『オオサンショウウオの涙』

No. 1

DATE 2015. 9. 8

自然愛・環境問題研究所
総括研究員 浅野隆彦

「水資源機構」は、川上ダム建設に伴う自然環境への影響について (H17.7.1付) を発表している。

私は、「伊賀・水と緑の会」代表 森本博氏と共に、4月27日、「川上ダム建設所」所長、副所長、環境課長などと会見し、『生態系について、既知の知識は乏しく、特にオオサンショウウオ中에서도その幼生について未知のヴェールが広がっている。5年、10年でなく、又、人工保護池でなく、自然のフィールドに於ける40年50年の調査・研究がなければ、ホントウの所が判らない。確実な調査を続け、安易な結論を出す事がないよう希望する。』と要請した。これは、「第9回川上ダムオオサンショウウオ調査・保全検討委員会」が、2月19日、貯水予定地に生息する116匹を上流に移転させるという「保全対策」を決めた事への危機感からであった。その問題点は、意見書 No. 583 『オオサンショウウオを泣かせるな!』に述べている。

さて、文頭の説明資料に次の内容がある。

『移転試験により湛水予定地内で確認された成体50個体を、湛水予定地よりも上流に移転し、その後の追跡調査により移転した50個体のうち18個体を確認した。』

その結果、①再捕獲した個体は、移転先から移転前の生息地(湛水予定区域)に戻る傾向は見受けられず、ほぼ定住している。②体重は、高密度に分布した地点に移転した個体は体重を減らし、低密度に分布した地点に移転した個体は体重を増やしている、という傾向が伺えた。』

標識をつけ移転させたそう広範囲でない試験地で、36% (18/50) が再確認されていない。これは明らかに、「過密戦争による死」が想定される。普通に生きているなら、日々体重が増えるのが当然であり、体重が減っている個体群

No. 2

DATE

があるというのは、いかに「移転」という「保全対策」が、「反科学的愚策」であるかを示す証左であろう。

移転の32個体のみが死んだのではなく、争うことになった先住個体も何匹か死んでしまった可能性がある。

オオサンショウウオの涙は辛く、濁ってしまった。

川上ダムに頼らない治水対策

伊賀・水と緑の会

伊賀市桐ヶ丘 佐藤 保彦

1. はじめに

国土交通省は平成17年7月1日に計画中の川上ダムは利水機能の一部を残し、治水ダムとし、規模を縮小して建設することを決めたと発表した。

一方で、淀川流域委員会資料（事業中のダムについての意見書）（以下委員会資料という）の中で、川上ダムの主たる目的は岩倉峡上流上野地区の洪水調節であると述べている。

このような中で、同省近畿地方整備局の河川管理者提供資料（平成17年8月24日）によると、①岩倉峡の疎通能力、②洪水調節効果、③遊水池の越流提諸元の検討について補足説明がされている。

このうち、①、②について、月ヶ瀬滋章の会浅野氏の川上ダム治水無用論（以下浅野資料という）や委員会資料により検証を行なう。

2. 岩倉峡の疎通能力

木津川上流河川事務所は最近まで、島ヶ原測定実績流量のピーク流量一横入河川ピーク流量等で、 $2900 \text{ m}^3/\text{sec}$ が岩倉峡の疎通量であると説明してきた。

また、平成5年作成の観測流量表で不等流として計算された流量が水位10.5mで $3630 \text{ m}^3/\text{sec}$ と記している。浅野資料によると、上野遊水池（総流量 900 万 m^3 ）が完成し、その周囲の堤防高さがE. L139.0mであるので越流提平均高さをE. L136.6mにとし、岩倉峡入口部の水位を計画洪水水位E. L136.6mに抑え、岩倉峡狭窄部の流量を検討している。川幅約70m、水深11.6m（最深部）、河床勾配0.005等を設定条件とし、疎流量は $4223 \text{ m}^3/\text{sec}$ 以上としている。

3. 洪水調節効果

既往最大規模の洪水は岩倉地点で高水量 $3532 \text{ m}^3/\text{sec}$ 、また、島ヶ原地点での高水量は $3619 \text{ m}^3/\text{sec}$ となっている。これらに前記の疎通量を照合してみると

①：浅野資料の場合・・・ $4223 - 3619 = 604 \text{ m}^3/\text{sec}$ 以上の余裕である。

②：平成5年不等流の場合・・・ $3630 - 3532 = 98 \text{ m}^3/\text{sec}$ の余裕あり。

③：昭和28年9月25日の実績？の場合・・・ $2900 - 3532 = -632 \text{ m}^3/\text{sec}$

sec

③の場合、上流側へのバックウォーターとなる（全逆流量、3日で約683万 m^3 ）が遊水池容量は900万 m^3 であり氾濫は全く無い。

以上の結果で対象地区の治水対策は満足されると判断される。

さらに上乘せした治水対策として、委員会資料による水田活用（休耕田も含む）案や堤防補強と併せた河床掘削・拡幅・河道内障害物の除去等を行なう河道改修による流下能力増大案も検討の対象となり、より洪水調節効果が期待できる。

4. おわりに

委員会資料によると、ダム建設は基本的に自然環境に対して明らかに負の影響をもたらすもので、治水・利水の効果が自然環境に及ぼす負の影響にもまして、人間生存に不可欠と認められる場合にのみダム建設が容認されるとしている。

川上ダムの建設はオオサンショウウオやオオタカをはじめとする多様な生物の生息環境の破壊等、ダム周辺の豊かな自然環境に重大な負の影響を及ぼす恐れが懸念されることや、木津川の砂礫河床が河川水質の浄化機能に大きく関わっていることが明らかにされており、河川保全の観点からも配慮を要するとしている。

これからの治水対策は、森林整備、堤防強化と併せて、河道整備等を推進し、環境への負の影響を減らす姿勢が望まれる。

以上、これまでの検討内容により、上野地区の治水対策は川上ダム以外の方法である遊水池やその他の施策によって充分満足な結果が得られると判断するものである。

以上

伊賀市青山郵便局私書箱 2 号
伊賀・水と緑の会
浜田不二子

淀川流域委員会
木津川上流部会 様

1 はじめに

いよいよ河川整備に対する意見書取りまとめの期日が迫って参りました。

伊賀・水と緑の会は、月 1 回の例会で、必ず川上ダム建設計画についての話し合いや、講師を招き学習会をして来ました。

その度々に出される結果は「川上ダムはいりません」です。

780 兆円もの赤字になっている国の財政に、追い打ちをかけて新たにダムを造らねばならない納得する理由を説明していただいております。

一部受益者のために造ろうとしているのでしょうか。マータイさん風にいわしてもらえば、大変に「もったいない」といわねばなりません。

造る理由の無いダムに高額を投じるよりも、投じねばならない被災地が次々現れている災害多い日本の状況をふまえるべきだと、申し上げたい。

2 木津川上流河川事務所の対応に誠意がみえません

8 月 21 日、名張で行われた木津川上流部会以降、再三・再四私たちの会は木津川上流河川事務所に「まずは治水について論議・話し合い」を申し入れてきました。しかし本日 8 日になっても一向に期日を定めて来ないのです。ところが、たった今連絡が入りました。9 月 30 日に指定して、尚かつ話し合いの席にマスコミ関係者が加わると出せない資料があるかもしれないというのです。どんな内容を示して下さるといのでしょうか。それはそれで楽しみなのですが、9 月 30 日といえは、流域委員会の意見書はお手元を離れて数日後となります。これでは意味が薄れるからせめて 9 月 25 日以前にと変更を願ったのですが譲ってはもらえませんでした。

国交省、全国総合開発計画が 2・3 日前の新聞誌上で発表され、環境影響を重視した公共事業の見直し云々の内容でした。

京都議定書に現れているように、世界の流れはこの大切な地球の星のいのち - いつまで保つのかに関心が集まっていて、日本もその流れに乗ろうとしているのです。

この時に、河川局は川上ダム建設の理由付けに苦慮して、当会との話し合いをあとまわしにしていると、受け取れなくもありませんでしたのでご報告します。

3 ダム関連工事による近隣の里山に変化が現れる

今年の春は近くの藪にて鳴くウグイスの音が、いつもよりずっとずっと少なかったです。ダム建設予定地から直近で 3・4km の所で、感じていました。

関連道路の工事が進み、ダム予定地内の森林が次々伐採されてゆく中での現象です。人里をこわがらず涼しい夏の朝なら、いつでも鳴き声がきこえて、それだけで優雅な気分になれる。里山に住む者ならではの恩恵の証であるウグイスは一体どこへ消えていったのでしょうか。お陰で春を実感することのできない淋しい春でした。

どうかこれ以上、私たちの伊賀の里山を傷つけないでいただきたい。切なる願いです。このみどり豊かなふるさとを豊かなまんまで子や孫に手渡してやりたい。唯、それだけなのです。

4 おわりに

さてさてこれでは立ち退き、移転を余儀なくされた方々のご心情は乱れるばかりなのでしょう。ダムの水にどっぷりと沈むふるさとがよいのか、それとも彼の地を以前にも増してみどりに溢れたふるさとに甦らせ、親林公園プランなどなど、いくらでも夢の広がるふるさとになるのがよいのか、お尋ねしてみたい気持ちでいっぱいです。

川上の地に汗して働き眠る、今は亡き先輩おひとりおひとりの発言しようにもできない御霊のお声にこそ心鎮めて耳を傾けてみたいと、思い続けています。

残酷な、オオサンショウウオ移転試験、保護池での飼育を即時、中止せよ

奈良県 月ヶ瀬村石打 小山 公久

国の特別天然記念物のオオサンショウウオが、そのなかでもとりわけ多く生き残ってきた川上川、前深瀬川流域に川上ダムが、ダム本体工事を残して、すでに半分実施されてきました。

が、環境に対しては、ほとんど手をうたずして、工事が行われ、環境破壊は目をおおうばかりです。

とりわけ、オオサンショウウオに対して、とり返しのつかない行為が試験の名目で行われています。ダム流水予定区域で確認された 100 個体のうち、すでに半分の 50 個体が、エサや生育環境整備も行われずして、上流に強制移動させられて、過密状態のため、体重減少、次には死亡に向かっている状態です。すでにく匹かは死亡しているものと考えられます。

又、保護池と称して、狭い所へ多数閉じ込め、自然のエサでなく金魚を与えている。産卵しているから、大丈夫だと言ってるのは間違っている。監獄の中でも子は産まれる。保護でも保全でもない、虐待そのものである。

上流地域の食物連鎖、生産量の生態学的調査が不十分であり、あといくら移転可能なのか、どうして現在数なのか明らかにされていない、50 匹移転させえる根拠が不明のまま数名の人しか知らずして、移転がこっそり行われた。計画を検討中とばかり思っていた。どう保護してゆくかの基礎調査の段階かと思っていたが、すでに闇で実施されていた。

その間、いつ、調査結果が公表されてきたのか、また、実施計画案を示した事があるのか明らかにせよ。国民の税金を使いながら、研究計画、調査結果を公表せず、どんどん進めるやり方が問われているのでなかったのか。みんなで知恵をしぼる考えは、ないのか。

どうして貴重な動植物、自然が残りえたのか。

伊勢神宮領

この地域周辺は歴史文献に、伊勢神宮領^{むこやま}六箇山として登場してき、山の民、川の民の神民が、山の幸、川の幸を神宮に納めてきた地域です。

延暦 13 年（西暦 794 年）注進の『皇太神宮儀式帳』に、「六箇山、朝夕の御饌^{みけ}の^み箕造り奉る竹原ならびに箕藤、黒葛^{かづら}生うるところ三百六十町伊賀国名張郡にあり。また朝夕の御饌に供え奉る^{あゆ}年魚取る淵、^{やな}梁さす瀬一処、また御栗栖^{くるす}二町、伊賀郡にあり。」とある。

『神鳳抄』に「伊賀国^{たらむ}多良牟六箇山、五十三町五反、御饌調備料、箕藤、黒葛、ならびに三度御祭（六月、十二月の^{つきなみ}月次祭、九月の^{かんなめ}神嘗祭）御贄^{みにえ}など雑器料、^{まさめ}正目の^{しのき}櫓木、そのほか^{ちよま}苧麻布、紙など勤之。」

承平 4 年（934）の、伊勢市の「光明寺文書」の『伊賀国夏見郷刀禰解案』には、夏見郷にある神宮領の所在地名として「比奈知、針生、長木、布乃布、大野、太良牟、色豆、上家、菅野、土屋原、曾児、高羽をあげている。現在の地名にあてはめてみると比奈知、（不

明) 奈垣、^{ふのう}布生、(滝之原)、^{たろお}太郎生、敷津、^{こうずえ}神末、菅野、土屋原、^{そに}曾爾、(不明) と現在の名張市比奈知、^{くにつ}国津地区、一志郡美杉村太郎生、奈良県御杖村、^{そに}曾爾村を含む山村地帯と、それを貫いて流れる阿川に当る。

そして四至として東西南北の境界が示されている内の「東限 高回川」は、高尾川(深瀬川)のことで、鷹が回う川の意味かも知れない。又、「西限 栗川」は、青蓮寺川と考えられ栗の多い川を意味している。又、「鷹巣が一所あり、色豆巣と号す。」と特記されているのは、鷹のおる山があり、当時から鷹狩り用の鷹を育成する場所としていた、あるいは、^{はね}矢の羽として鷹の羽が一番上等だったので、矢羽のため等の鷹巣山として重要性があった。

康保2年(965)『東大寺文書』『伊賀国夏見郷刀爾解案』藤原朝成の所領地として「栗林三処」あり、そのうちの「一処地は93町、夏見郷比奈知打鋤置にあり、栗山ならびに山。」とあり、比奈知に栗林があり、食料・建築木材として重要な生産地であった。その四至のうち「東 小鮎滝」も注目される。

名居神社

現在、名張市下比奈知官ノ谷

祭神 主神 ^{おなむち}大己貴命

^{くにつ}国津大明神として祭られてきた。六箇山地域の神社は、ほとんど国津神社である。

『延喜式 神名帳』に記載された式内社で、次に述べる大村神社も同じく延喜式内社。

名居神社は「ない」と訓み、古代には「地」「地震」を「なぬ」「ナ牟」と訓んでいたので、本来、地震の神を祭った神社である。

『日本書紀』推古天皇七年(599)四月一日条に「^{ないふ}地震いて舎屋悉に破たれぬ。即ち四方に令して、^{ない}地震の神を祭らしむ。」この時祭らした「地震神」であれば延喜式神名帳の中で「ない」が社名として残っている全国唯一の神社である。

大村神社

現在、伊賀市青山町阿保

祭神 主神 大村神

配神(春日三神) ^{たけみかづち}武甕槌神(鹿島神) ^{ふつぬし}経津主神(香取神) ^{あめのこやね}天兒屋根命(牧岡神)

春日三神は、神護景雲元年(787)鹿島神宮から三笠山に勤請した途中、この地に立ち寄られた時に合祀されたと思われる。

^{かぬめいし}要石 境内に祭られており、地震の神様として崇拝されています。

『鹿島神宮社例伝記』では、鹿島神宮にある要石は、鹿島の神が降った時、御座にした石であり「山の宮」と呼んでいる。

茨城県の鹿島神宮と千葉県の香取神宮の要石が有名で、地中であばれて地震を起す^{なまず}大鯰を鹿島の^{たけみかづち}武甕槌神が要石で押さえているという、地震を鎮める要石である。

大ナマズとはオオサンショウウオのことで大地の神として、古代から^{あが}崇め^{おそ}畏れ^{たてまつ}奉ってきた。

大村神社の祭礼には、神社前の石打川（木津川）で河原石を石打して、驚いて浮かんできたアユを取り、神に供える。これはオオサンショウウオ、地震の神様に捧げる行事であるとも考えられる。

名居神社、大村神社と古代からこの地の神社が、どうして地震の神様をお祭りしてきたのか、よく考えていただきたい。

平城^{なら}の都に藤原氏が一族の祖、天児屋根命をお祭りする春日大社を建てられた時、鹿島香取の神をお連れする途中、この地に寄られ関西の地を鎮める要石とされたもので、この地域が、どれほど重要な地であるか、守ってゆかねばならない聖地です。

『嘘の病 膏肓に入る』－岩倉峽疎通量－

’05.9.5

自然愛・環境問題研究所
総括研究員 浅野 隆彦

先ず下の〔参考資料A〕を見て、次頁の〔参考資料B〕を展いて下さい。

〔参考資料A〕で、観測値を用い外挿する手法で、河道特性も河道断面形状から検討し、上位7つの観測値において外挿した、としています。

岩倉峽の疎通能力

[参考資料 A]

岩倉地点(57.4k)の水位流量曲線

○ 岩倉峽上流の治水対策の検討を行うにあたり、岩倉峽の疎通能力が何 m^3/S であるかを、岩倉地点(57.4k)の実測の流量観測値と河道特性を基に水位流量曲線を作成しました。

(第9回ダムWGにて提示)

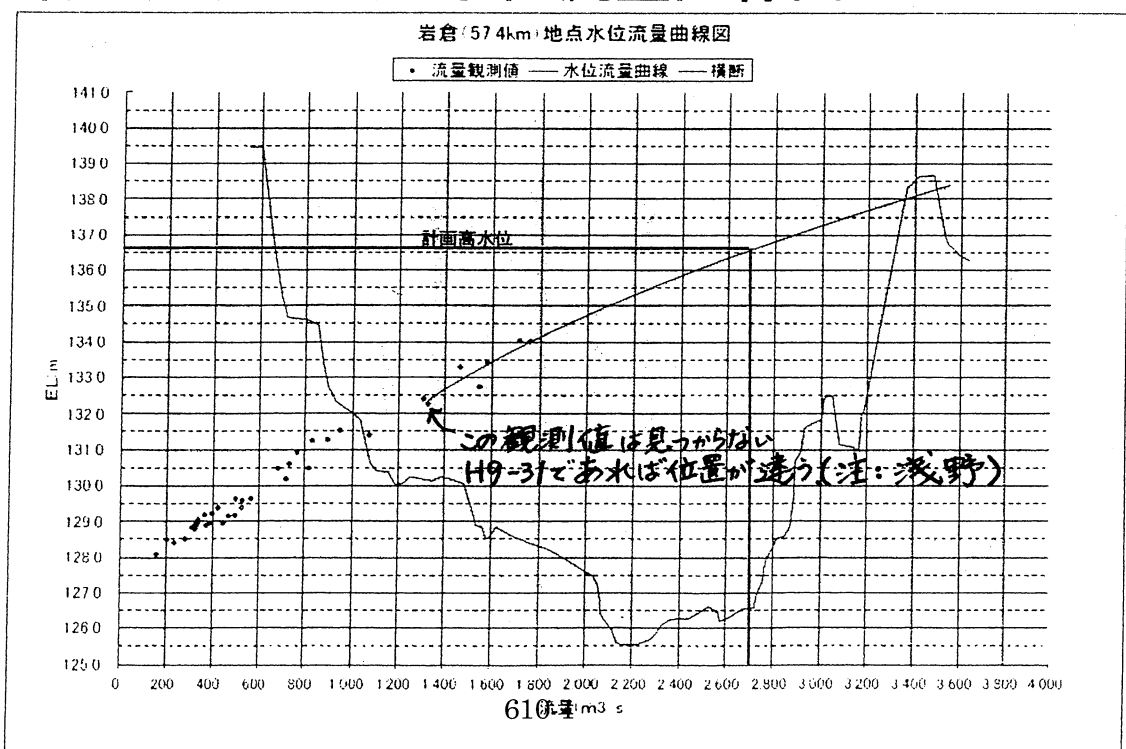
○ 実測流量観測値がない範囲の流量を推定する方法としては、一般的に次の2つの方法があります。

- ① 観測値を用いて外挿する方法
- ② 水理学的に推定する方法

○ 専門家の意見も聞きながら、観測値を用いて外挿する方法を採用し、河道断面形状から河道特性を検討し、上位7つの観測値による外挿を行いました。

第9回ダムWG資料3-6より抜粋

岩倉地点(57.4k)の水位流量曲線図



何故、7つだけなのか？それは疎通量を小さく見せる必要があるからでしょう。〔参考資料 B〕のポイント×は、観測流量表から転記したもので、言わば隠されようとした実測値です。2,000 m³/S を超える「S57-22」を含め、1,000m³/S 付近から上位に 21 の観測値が存在しているのです。明らかに都合のよい 1/3 のポイントしか使用しないというやり方で、どこに真実があると言えるのでしょうか？

22 年間の観測データを基に、河道特性も検討し、平成 5 年、河川管理者自身が不等流計算で確認した計画高水位 (E.L136.9m) 3,630.61m³/S (H5-1') 他、(H5-2') (H5-3') を結ぶ水位流量曲線は、中位及び下位の実測ポイントに自然に帰一しているのが、〔参考資料 B〕でお判りのことと思います。

もう一つのトンデモナイ「まやかし」は、ここら辺から始まったのでしょうか。〔参考資料 C〕をご覧ください。

それ迄、岩倉観測所地点の通過量を、私に 2,940m³/S (昭和 28 年 9 月 25 日島ヶ原地点観測実績より推定) と説明してきた河川事務所は、昨年 7 月 18 日、木津川上流「住民対話集会 (第 4 回)」説明資料として、「岩倉地点の水位流量曲線図」を示しました。木津川 57.4K 地点となっていますね。だが、この横断面は、それより右岸で 63.1m 下流の岩倉観測所地点のもので、そして、57.4K 地点は「浮子 (フロート) の投入場所」ではあっても、量水標もなく、基準水位もありません。HWL (計画高水位) TP136.590 は確かに 57.4K 地点のもので、何と 3,050m³/S (水位 10.9m) となっています。あまりにチャランポランなので、「デタラメ」だと指摘すると、又、辻褄合せの「岩倉地点(57.4K)の水位流量曲線図」を出して来ました。

岩倉観測所の地点は計画高水位 E.L136.9m で、岩倉 (57.4K) 地点は、E.L136.59m だと言えば、もうお判りですね。通過最大流量の検討において、平均流速が同じであったとしても、横断面が似ているとしても、水面幅の広い高水位で 31cm の差があれば、150m³/S~200m³/S の違いがでます。

これ迄の観測流量値は、量水標があり、自記流速計のある岩倉観測所地点を通過する流速を捕え、同地点横断面積に平均流速を掛けて流量を算定しているのであり、岩倉 (57.4km) 断面を使用していません。このような「まやかし」で、岩倉峽疎通量を小さく見せかけたい意図は想像に難くありません。930m³/S の違いを生んでいるこの問題は、全ての流量水位を「岩倉観測所地点」における平均流速及び断面積の実測値に限って検討し、結果を求めなければなりません。

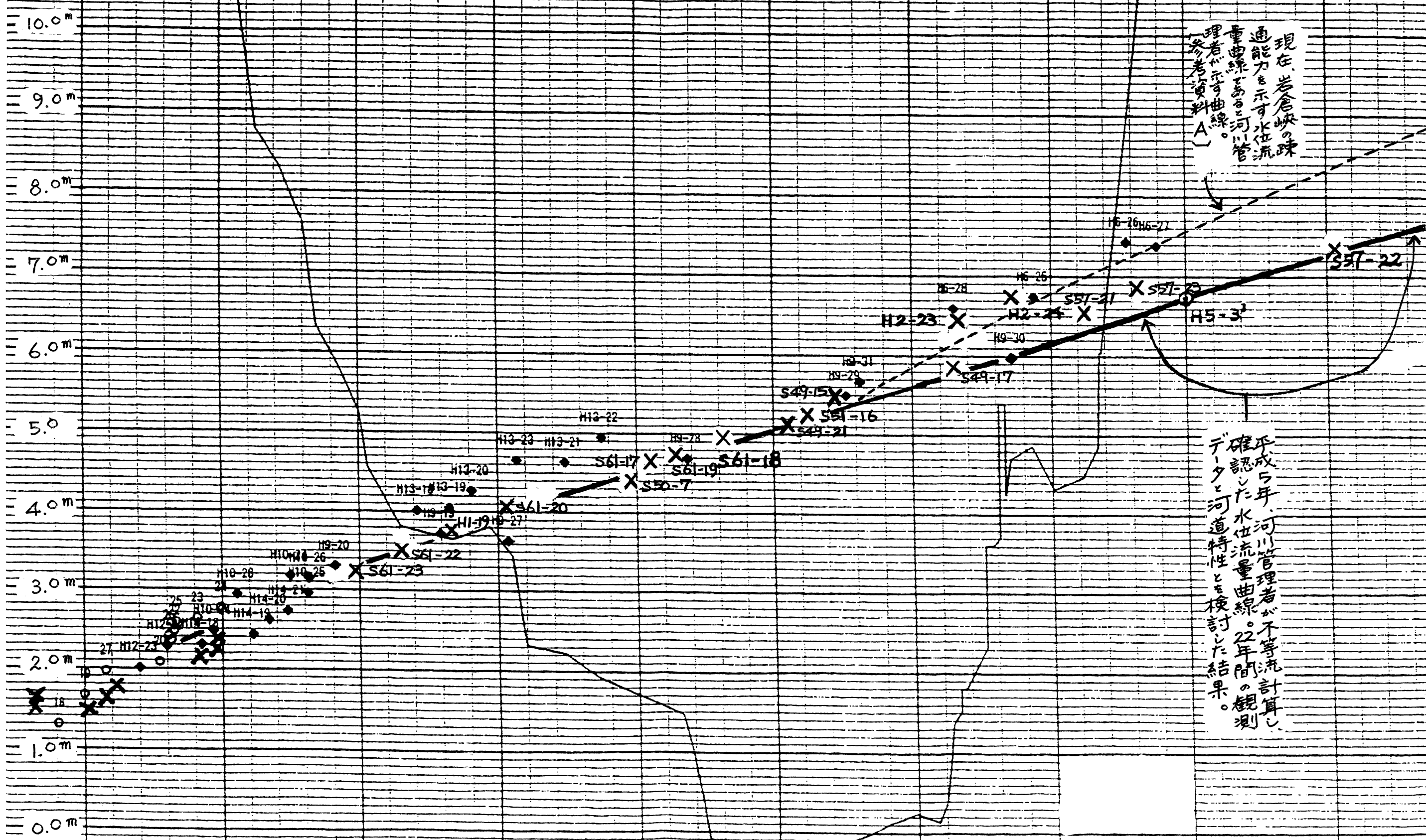
〔参考資料 D〕に木津川 55.0K~59.8K 間の縦断面図を示します。計画河床勾配線が実線で示されています。

57.4K 地点で平均河床高さが (126.49-124.05) 2.44m、57.3283K (岩倉観測所地点) でも約 2 m 下る計画です。河床勾配が増え河道断面積が増加することで 100~160m³/S の通過流量増になると推定しています。河道掘穿計画の厳密な検討作業は必要であり、55.9K 辺りまでの河床を掘穿することは、岩倉峽河川景観を保全する観点で言えば、ギリギリの許容範囲ではないかと思えます。

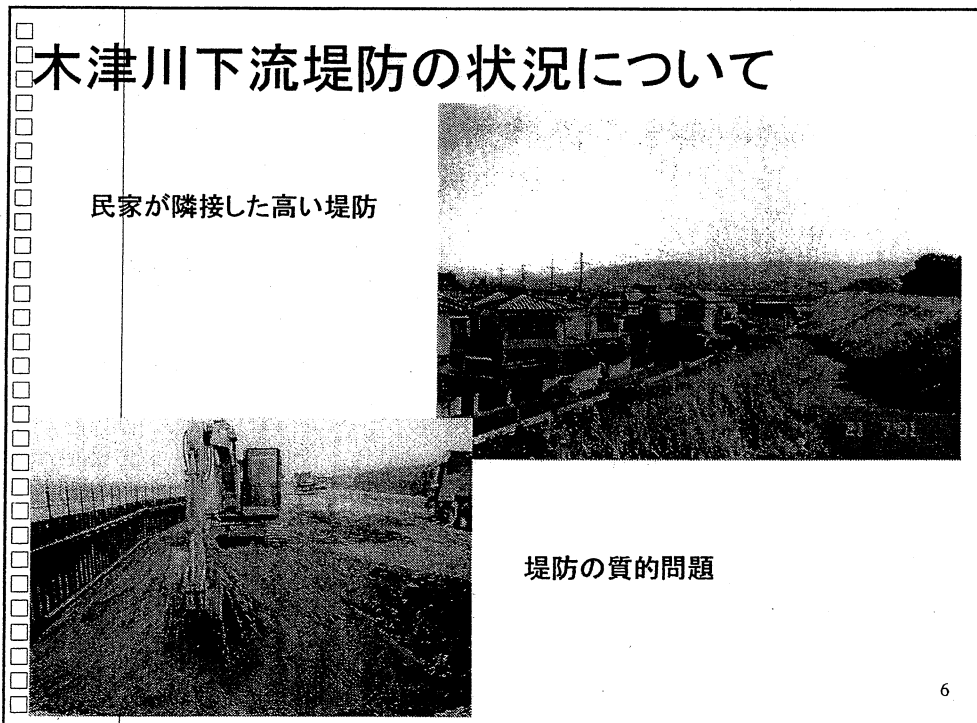
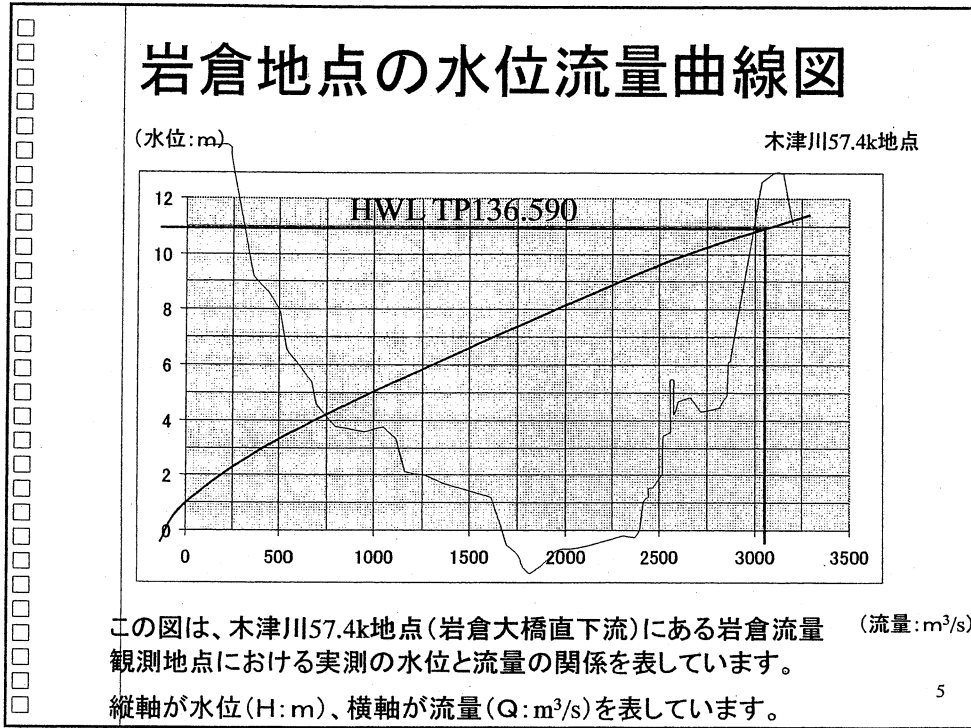
〔参考資料 B〕 観測流量詳細 700m³/s
 岩倉観測所地点 (57.3283°K)

11.0m 400 m³/s 600 m³/s 1,000 m³/s 1,600 m³/s 2,000 m³/s

計画高水位 E.L. 136.9m



[参考資料 C]

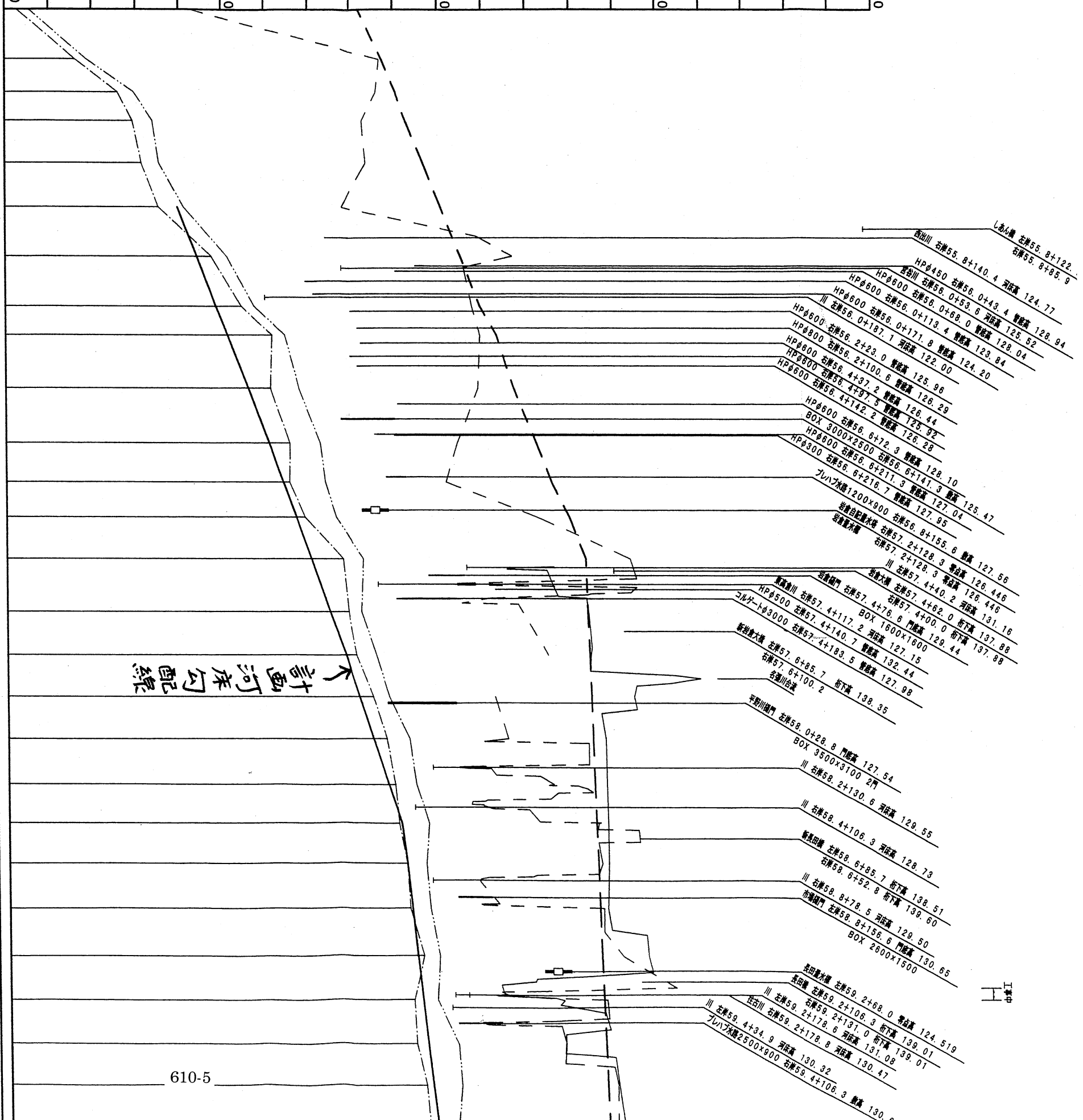


[参考資料 D]

DL=110.00

距離標	区間距離	追加距離		左岸距離杭高	右岸距離杭高	左岸堤内地盤高	右岸堤内地盤高	左岸堤防高	右岸堤防高	最低河床高	平均河床高	河床勾配	河床高	高水位	築堤高
		左	右												

55.0	227.20	17862.20	117.840	116.913				127.38	113.24	113.77				127.50	
55.2	150.80	18013.00	124.100	118.508				127.28	115.20	115.93				128.12	
55.4	131.00	18144.00	120.800	126.394				126.57	115.88	116.79				128.58	
55.6	181.80	18335.80	121.642	126.987				126.73	118.27	117.09				129.34	
55.8	201.50	18537.30	122.308	126.224				126.57	117.08	118.23				130.19	
56.0	226.50	18762.80	123.246	127.849				130.38	119.82	120.28				131.01	
56.2	228.00	18990.80	126.202	131.549				131.58	120.83	121.53				131.88	
56.4	132.00	19122.80	124.840	127.717				131.87	122.31	122.88				132.61	
56.6	244.40	19387.20	127.558	130.588				131.78	122.23	123.92				133.37	
56.8	251.80	19618.80	127.480	128.751				130.81	123.08	124.50				134.40	
57.0	178.40	19798.20	128.748	128.911				130.28	123.06	124.72				135.09	
57.2	160.40	19958.80	132.494	130.897				134.40	123.77	125.22				135.85	
57.4	181.40	20150.00	134.877	132.250				138.88	126.54	126.40				136.58	
57.6	242.80	20392.80	136.316	131.818				136.88	125.78	126.38				136.66	
57.8	188.10	20591.60	138.480	132.058				136.78	134.85	128.14				136.73	
58.0	191.50	20783.40	138.779	132.557				138.81	132.40	126.89				136.80	
58.2	184.00	20977.40	138.232	133.200				137.45	132.88	127.49				136.86	
58.4	210.00	21187.40	136.608	132.418				137.48	135.06	127.85				136.93	
58.6	178.00	21366.40	136.934	133.097				137.50	137.10	128.02				136.98	
58.8	184.20	21550.60	136.585	132.117				137.54	137.24	128.95				137.08	
59.0	207.00	21757.60	136.134	137.626				137.40	137.30	128.47				137.12	
59.2	218.20	21976.80	138.487	138.825				138.37	138.18	129.07				137.18	
59.4	202.00	22178.80	132.882	137.139				135.40	137.39	128.61				137.25	
59.6	202.10	22380.90	135.886	134.873				135.44	136.46	128.70				137.32	
59.8	192.80	22573.70	137.618	136.774				137.90	137.88	128.13				137.38	



2005.9.6

守山市 永末博幸

淀川流域委員会への期待

1. 私は、淀川流域委員会が出した 020514『中間とりまとめ』に対する意見書の中で、淀川流域委員会の提言は我が国の今後の河川整備計画を策定するに当たっての指針となるような極めて重要な役割を持っており、その位置づけは淀川流域だけにとどまらず全国的な河川整備の方向付けを左右するものであるから、淀川が全国河川のモデルとなるような治水と環境との調整について提言していただきたいと申しました。
2. 更に、このことについては、030117の『新たな河川整備をめざして 提言』に対しても、現状の河川環境に対する問題点の指摘や方向性を示唆するだけでなく、河川整備計画を策定するに当たって最も重要で、且つ困難な課題である環境改善のための具体的な提言をしていただきたいと重ねて申しました。
030117の提言では、自然環境を考慮した治水計画の一例として瀬や淵の復元や自然材料を用いた緩傾斜護岸が提示されました。この事例では、環境改善のために現況川幅を拡幅するのかどうかの問題や治水安全度をどこまで維持すべきかなどが明らかでないためもっと深く議論していただきたいとの意見を述べましたが、その後の議論に大きな期待を持って見守っていました。
3. ところが残念ながら、その後において、「治水と環境との調整」という課題が公開された委員会の中で議論されたことは、私の記憶では琵琶湖の水位操作に関することくらいではないかと思えます。これとても、現在のところは、琵琶湖の環境改善のためには琵琶湖開発以前の水位操作に戻すべきであるという、私には賛成しかねる基調の中での委員の主張段階です。
この治水と環境との調和の課題は何も河道だけの問題ではありません。ダムにおいても然りです。
しかしながら、今回提出された『「淀川水系5ダムについての方針」に対する見解 2005.8.5』を拝見して、あるいはこれまでの委員会での発言を伺っていて感じることは、この流域委員会に“治水と環境との調整についての提言”を望むことは期待できないのかということです。
4. 今回の『見解』に代表されるように、流域委員会のダムに関するスタンスは、当初からダムは自然環境に不可逆的な負の影響をもたらすことからダムは建設すべきではないという一点張りです。
だから河川管理者が「大戸川ダムを中止する」といえば「英断として高く評価する」といい、「丹生ダムは形を変えて建設する」といえば、形のことは深く議論もしないで、「賛成できない」という。
つまり、この委員会におけるダムと環境との調整とは、ダムを造るか、造らないかの二者択一だけのようです。しかも、「ダム建設を中止する」と言わ

なければ、「賛成できない」という一見圧力団体みたいにダム廃止を強行に主張する団体であるかのように思えます。

すべてのダム建設に反対することが、平成9年に改訂された河川法の本来理念に沿っているのでしょうか、甚だ疑問です。

ダムに関しては、治水と環境との調整ということは無いのでしょうか。

5. これまでの議論においても、委員会はダムに代わる代替策を早急に提案するように河川管理者に強く求めています。この過程において既設のダムにはどのような環境保全上の問題がありそれを防止できる方策はなかったのか、ダムを建設する場合にどのような対策をすれば環境への負荷をより小さくできるか、こうした既設ダムの実態や経験を踏まえて環境への負荷を少なくするために各ダムは何をすることが可能なか、そのようなダムを建設したときにどのような壊滅的環境上の問題が生じるのか、などなど環境保全に対してただ予防原則といった消極的な対応だけではなく、もっと積極的な方策についての検討や議論があって然るべきではありませんか。

「大戸川ダムの建設を当面実施せず」について、流域委員会は「高く評価する」と言っていますが、これは淀川流域における治水の将来像を如何にすべきか、その中でダムの必要性はどうかといった観点からの議論ではなく、ダムは自然環境に影響をもたらすという一般的抽象的理由から大戸川ダムの建設中止を評価しているにすぎません。

6. 大戸川ダムの審議過程において、確率 1/150 で 6524 型の降雨があったとき、宇治川では 1700m³/s という計画高水流量 1500 m³/s を越える流出量があることが報告されていますが、流域委員会はこのことをどのように考えておられますか。

いまは20~30年先の河川整備計画を議論しているのであるから、確率 1/150 は過大であるとお考えなのでしょうか。

最近、各地で時間雨量 70mm を超す豪雨が数時間も継続するような洪水が発生し大きな災害となっていますが、これは異常降雨であり整備計画の対象外であるということですか。

審議過程において、対象降雨を実績降雨に限定すべきであると強く主張されていますが、それ以上の雨は異常降雨として処理すべきだということですか。

常々、洪水は明日にでも来るかも知れないという言葉を使っていますが、この時の洪水は既往最大洪水の範囲内の規模を指しているのですか。

既往最大の洪水を対象にすれば、治水上は免責されると思っているのですか。

もしもこのような洪水が大戸川・宇治川流域にあり、不幸にして大戸川・宇治川が破堤するような壊滅的被害があれば、当然のことながら今回の大戸川ダム建設中止の決定は社会問題化し責任問題にも発展するでしょうし、大戸川ダム建設問題も再燃するに違いありません。

このとき流域委員会は「委員会は意見を述べただけで大戸川ダムの建設中止を決定したのは河川管理者である」と主張されるのでしょうか。

7. 大戸川ダム建設中止の決定の意味合いは、「新規ダム建設の要望を採択

せず」ということとは訳が違います。したがって、結果責任は格別に重いはずです。

永年にわたって大戸川ダム必要性を説き、ダム建設への理解と協力を地域住民にお願いし、漸くにして水没住民も新たな地域へ移転されいよいよダム本体にかかるという最終段階になって、ダムは自然環境に対して不可逆的な負の影響を与えるから建設すべきではないと流域委員会が評論家的な、それでいて強力な指導を河川管理者に与え、河川管理者がやむなく「当面は実施せず」と決定した、この決定の責任は誰にあるのでしょうか。

今回の決定は、もしも大戸川ダムを建設せずについて、後年に大戸川下流、瀬田川下流、天ヶ瀬ダム、宇治川など関係する一連の地域が壊滅的被害を受けたときの責任に対する覚悟を持っての決定であり、評価であるはずですが、それほどの覚悟を持ってのことでしょうか。

8. そもそも“治水と環境”という、限られた条件の中では相反する命題を如何に調整しながら、それぞれが若干の不満を持ちつつも、治水も環境も将来に亘って安全と安心を一定のレベルにまでは確保するように措置することが行政の責務であり、そのための方策について意見を述べるのが流域委員会であると考えます。

しかるに、流域委員会の行動は、大戸川ダム建設中止を高く評価するように、自然環境の保全のためには治水を犠牲にしてでもダムは建設すべきではないという主張です。

大戸川ダムの治水上の必要性を信じダム建設継続を願うものにとって、環境に影響があるから建設すべきではないという通り一遍の主張に納得できるわけがありません。

前述のように、これほどに進捗している大戸川ダムを環境保全の立場から中止するわけですから、ダム建設の継続を望む者が納得できるように、きっちりとした説明責任を果たすべきであります。

なお、念のために申し添えますと、この説明責任は一義的には淀川流域委員会にあるのであって、河川管理者ではないということです。

9. 結局のところ、流域委員会には多くの専門家がいて4年間におよぶ議論がなされたにもかかわらず、治水と環境との調和についての知見が深まったとは思えませんし、私が最も期待していた「治水と環境との調和した川づくりは如何にあるべきか」について、具体的な提言がなされていないことは誠に残念です。

特にダムについては、ダムに対する理解者が極めて少数の委員構成の中で、しかも流域委員会が初期の段階においてダムは建設すべきではないと決定した枠組の中においては、ダムの必要性、ダムと河道との役割、ダムと環境との調整、ダムの具体的構造などの議論をすること自体に無理があったものと思われまます。

10. 今回、流域委員会に諮問された大きなテーマとして住民意見の反映の問題があります。何回にも及ぶ地域住民との対話などが開催され、住民の

意見はかなり幅広く聴取されたことと思います。中でも丹生ダム建設については地元住民の要望は極めて強いものがあるし、今回の河川管理者の提案に対しても県当局をはじめ大勢の地元住民が反対していますが、流域委員会としてはこうした地域住民の意見をどのように反映されるのでしょうか。

先日の長浜市における委員会（住民の意見を聴く会）を傍聴していて私が感じたことは、委員会が考えるダムに対する問題点を述べて、あるいはその方向の意見を引き出して住民を説得しようとのスタンスではないかということでした。

11. ところで私は今回国交省が提出した『淀川水系5ダムについての方針』において、大戸川ダムと丹生ダムに関する提案には反対です。

大戸川ダムはもともと治水主体のダムです。だから若干の容量変更はあるとしても基本的には当初どおりの計画で建設すべきだと思っています。また丹生ダムについては少なくとも下流新規利水への利水容量分を減じた多目的ダムとして建設すべきだと思っています。

まず大戸川ダムについては、現況における大戸川、瀬田川、天ヶ瀬ダム、宇治川の一連の治水安全度は極めて低く早急な治水対策が必要です。このため、私は以下の理由により大戸川ダムの早期建設再開、早期完成を願っています。その理由は、最近特に洪水が各地で頻発しており一刻の猶予もできないこと、当地域では既にダム建設の準備が整っており治水効果の即効性が期待できること、ダム建設は大戸川下流地域への治水効果が極めて顕著であるばかりでなくこれに代わる方策の実施には相当の年月を要することが明白であること、宇治川改修の進捗が容易ではないと思われること、宇治川が破堤すると壊滅的な被害を受けその影響が極めて大きいこと、宇治川の破堤は琵琶湖治水にも悪影響を与えること、大戸川ダムは瀬田川洗堰操作の緩和や天ヶ瀬ダム操作の緩和に有効であること、大戸川ダムには地元住民との長年に亘る交渉経緯があること、大戸川ダム建設を中止したからといってそれに代わる淀川水系の治水事業がより伸展するとは限らないことなどを総合的に勘案すると、宇治川堤防の強化に先駆けて大戸川ダムを優先的に建設すべきであると思います。

次に、丹生ダムの渇水対策容量を琵琶湖に肩代わりさせることには反対です。この計画案は、琵琶湖の治水、下流の治水、瀬田川洗堰の操作管理、琵琶湖から余呉湖への逆水、降雨予測技術などにおいて、既に完成した琵琶湖開発事業との関連も含めて問題点多すぎ計画上に無理があります。

私としては、遠い将来のためにこれまでの新規広域利水分の容量を琵琶湖の環境保全のために利用する（このような積極的な環境保全は従来では新規利水手当が精一杯でできなかった）とした基礎案の方向を基本的には望みますが、少なくとも丹生ダムが高時川の治水と淀川に対する異常渇水時の補給との多目的ダムとして建設されるべきであると思います。

丹生ダムを穴あきダムにするという提案に対し県をはじめ地元住民は強く

反対していますが、私も穴あきダムではなくゲート操作をしてよりダムの有効活用を図ることに賛同します。

丹生ダムには下流に琵琶湖という巨大な水面を持った自然湖があり、その周辺が過去から水害に悩んでいるという他の地域では見られない特殊性を持っていますが、丹生ダムには琵琶湖治水に貢献できるという副次的効果があります。つまり高時川の洪水調節で丹生ダムに貯留した容量を琵琶湖のピーク水位後に放流すれば、それは琵琶湖の真のピーク水位を低減したことになります。丹生ダムには琵琶湖水位 5 cm 相当の低減が期待できその貢献度は大きいです。

今回、河川管理者からは 2cm 分の容量を計画的に丹生ダムに確保することが提案されましたが、高時川の洪水調節分も同じですし、これはゲート操作による効果といえます。

これからは、むしろ折角建設するダムですから、治水や環境に対して丹生ダムを総合的、効果的に最大限活用するためにはどのようなダムの運用をすべきかについて、ダム完成までに研究することが必要であると思います。

- 1 2. 最後に、流域委員会は今後の 20~30 年間における河川整備計画を策定するための審議ですが、河川計画上の安全度としては 100 年、200 年といった長期的視点にたった中での提言でなければならないし、淀川水系とか近畿地域とかだけではなく全国的なバランスということも十分に考慮されなければならないと思います。

提言が現行制度の問題に及べば、あるべき姿は尊重されつつもその対応とは別に、具体的な事業展開には現行社会の仕組みや現行制度に基づいた解決策でなければなりません。

そのような制約の中において、行政は淀川流域の安全と安心、ゆとり、あるいは快適といった国民のニーズに応える施策を実行することだろうと思います。

ダム問題は、ある意味においてはそれらを象徴する事業です。

淀川流域委員会は、余りにも初期の段階においてダム建設をしないという方針を打ち出しました。このためダムに関する議論のその後の展開が極めて限られた範囲内での議論となり、ダムを造るか造らないかの二者択一にならざるを得なくなり、当然のこととしてダムは造らないと言うほかなくなったのではないかと思います。

今後、ダムに関する詳細な「意見」を提出されるようですが、流域委員会メンバーも大幅に替わられたこともあり、もう一度、本当にこれでよかったのか、ダムを含めて治水と環境とが調和した川づくりとは何なのか、この提言は全国河川のモデルとなりうるのか、などについて今一度議論されることを切に願うものであります。

以上縷々述べましたが、失礼の段はご容赦ください。

以上

平成17年7月21日・8月17日淀川水系流域委員会に出席してと

委員一般からの意見書を拝見して

琵琶湖総合開発の話が地元で話題になりかけたのが昭和47年前後、その後丹生ダムの話が出てきて折しも昭和50年の台風で姉川・高時川の合流点での浸水写真が度々出てくる所であるが、この頃の堤外民地は桑の木と野菜畑としてその殆どがきれいに耕作されており、河道内もしかり堤内民地の整理も程よくなされていた時に、あれだけの流量があっても助かったものと思われる。現在同様の流量で降雨があれば、大変危険であると思われます。その一つは、中流より上流域における河道護岸整備が進捗したこと、さらに上流域における山林での雪で折れた木材枝打ちシバ草の放置等大雨で流木やゴミになる要素のものが多くなったこと等があり、下流部における堤外民地の樹木と竹藪の伐採が出来ていないこと等を考えると（姉川大橋より美浜橋の間は、平成14・15年に伐採済み。）、昭和50年時の流量を伴う洪水があれば中流より下流での危険度は非常に高いと思われます。堤外民地の雑木の繁茂は、その後30年に及ぶ現在までです。この間の社会における食料事情・経済変化により、畑地の耕作をしなくなってきた。河川法の改正後、それらへの指摘・関心も高まり、この淀川水系流域委員会が出来てから堤外民地の伐採の話も出て来たところでは、おおよそ30年程前より、丹生の地にダムは作る・出来るということで長年のダムに対する予算付けとダムに関わる工事を見ており、また、丹生ダム周辺の地権者の買収と住民の移転も終わり、さあ残すところ本体工事と一部付帯工事となった段階で委員会発足と結論が出るまで関連工事をストップとなったところでは、5年前に準備万端整った中で、ダム待ち症候群とは地元流域住民を馬鹿にしているのか。ならば、今回の委員構成で見ると、ダム反対者結集委員会になってしまっていないか。

瀬切れ

意見を発表しておられる千代延氏が十分な情報収集が出来ていないだけ。河川漁業の昔からの言い伝えどおり、5/20には川は瀬切れになると思っているよう教えられてきた。（まれに例外の年もある。）今から30年前までは、姉川河口近くにある梁では下梁と上梁において6月1日よりその上下梁行使者が上下交替する制度をずっと用いてきた経緯がある。5月の瀬切れを見越して、5月に梁の補強をして6月から交替をしてやってきた経緯があるくらい5月末～6月初めまでの瀬切れは続いてきたものであった。それが、近年の異常気象と林地開発等が追い打ちをかけ、その上で高時川流域にあった慣行水利権を一つにまとめて頭首口を作り、水利権を周年の通常流量の検討も充分しないまま当時は食糧確保が最優先され、過大な水利権を与えたことで、瀬切れの期間が頭首口の出来る以前より多く・長くなっただけである。（慣行水利権の用水の末端部分での水争いは日常であった。）

農業排水の再利用・節水・30%減反・濁水防止、これらのことは用水の供給がいろんな条件により減少せざるを得ないとき初めてなされると思っております。非灌漑期の2.5~3.4tは、その用水水路の景観と防火用水として、いつの間にか増量されてしまっている。

(当初、この時期は1.1t/sであったと思っております。) 水性動植物の環境・生態保全を法改正の下でやっていこうとする時、本流に維持流量を保全させるのか、用水の流量確保優先に努めるのか(昔の慣行水利権・・・本流の川底に木材で木組みして地下浸透してきた水を集めて堤外へ導き、用水としてきた最も自然型の水利権。)、法の解釈と判断を見守っているところです。それでも瀬切れは高時川では起こります。洪水と瀬切れの繰り返しを、通年この地で見えてきた流域の方々が、4月初めまでに冬型気圧配置による北しぐれや雪解け等による大量の流量がある時その水を蓄めておいて、水需用が増してくる4月中旬より5月に用いることが出来たらとの思いと、大洪水ともなりうる時の河川の恐ろしさを知っているが故に、ダムありきになったと考えるところです。この時、水利権と取水が利水の中で話題になっているが、忘れてはならないのは、4月下旬~5月末までの田植え期の農業排水による琵琶湖沿岸部の濁水であり、この中に大量に混じる農薬と肥料をどうするか琵琶湖の環境の最も重要な問題であり、これについて委員会よりの大した提言も見ておらず、注目すべきでないと考えておられるのか大変気に掛けているところです。また、琵琶湖の水位変動について、その変動巾をゆるやかなものにして琵琶湖全体の生態保全を考える上で、丹生ダムよりの補給水は環境に配慮できるものと考えています。

次に、今本委員が出されている「穴あきダム」についてですが、平成14年4月より供用開始となったと思っておりますが、平成14年~16年までの姉川の流量状況を見ておきますと、平成14年・15年には9月・10月に必ずと言っていいほどの濁水状況となり、高時川の瀬切れは勿論のことのようになり、とりあえず姉川のダムより放水された流量により姉川水系だけが細々と流れる状況になってしまったことが、この2年間起こりました。折しも鮎の産卵期に当たり、大量の鮎の遡上と産卵が行なわれた所で、卵の干出を心配しておる時に姉川の流量により全部の河川面積が干し上がらない状態となり、結果的に琵琶湖の鮎資源産卵調査結果からみると、琵琶湖全体の30~35%を平成14・15年に姉川より流下していることになり、姉川ダムのお陰で流量が日延べしたことの効果による所大であると河川関係者は思っています。今本委員の今般の「穴あきダムについて」の中で、自然或いは社会環境に及ぼす悪影響も大きいと決め付けるのは如何なものか。それは、今本委員なり現委員会メンバーによる意見であって、上述のとおり、ダムがあつてこそ鮎産卵には良い結果も出ている上に、高時川・姉川と言わず、近年における気象条件から大洪水あり・流量不足あり瀬切れありの報道が度々マスコミを賑わす状態から言えば、人間の力により、その河川毎にその流量を調節する機能も必要であろうと考える。特に、姉川ダムにおいても、その周辺の動植物への保全・環境と言われるが、上流部にあり現在この周辺はダムにより水没もしくは貯水面積の出来るところの植物と上流部のみに生息する水性動物の一部が失われることになると思われるが、魚類については生息する魚の殆どを現地

漁協の放流によるものであり、ダムより下流域～琵琶湖までの長い河川流域に流量を安定的に流し、その地域で育まれる魚・昆虫類等を中心とした繁殖出来る場所を作り出して行くことが大事であろうと考えます。ダム下流にある姉川左岸土地改良区の頭首口においても、取水の収支整理調査の上に農業用水も必要、本流流量も当然必要とした位置付けが出来上がった時、河川整備計画が一步前進したものになると考えますし、ダムが穴あきだろうと上流に水が溜まろうと、先ず流量安定確保の上にダム湖内の水環境がどうであり、どうすべきかを議論するのも一つの選択肢と思います。

また、8月17日の流域住民の意見を聞く会の折りにも述べましたように、琵琶湖に流入する121河川も全て議論の中において、274億トンの水に関わる環境と改善改良を視野に入れた琵琶湖部会委員会であることを望みます。

ちなみに、ここ2～3年前よりエリ漁の網は藻（水産試験場によるとアオミドロ属のものとのこと）が詰まり、それに泥が付着して更に藻が繁殖して2～3ヶ月で網を揚げる事が出来ない程になり、サシ網もその月々と場所によっては2～3日でサシ網の目が藻でメガネ状態になってしまう程、現在の琵琶湖は漁業者にとって大変な状況です。上述のとおり、平成16年度の鮎の産卵については、ご存じのように沢山の台風通過で姉川の流量も多過ぎるほど次から次と増水し、産卵を終えた卵の心配をしたところですが、琵琶湖全体で42億尾・姉川流下22億尾となりました。しかしながら、度重なる増水で琵琶湖全体が濁りプランクトンの発生が例年のように行かなかったこともあり、発育不足等もあり、平成17年は鮎が不漁に追いやられたところでした。ここで注目すべきは、台風が多かったことで琵琶湖が濁り、それが長期化したことです。過去にも同量もしくはそれより多い琵琶湖への流入量を記録したような事例はあるはずであるが、近年の琵琶湖の濁水化と昔との違いはないか注目しているところです。琵琶湖部会は、ダムだけでなく琵琶湖274億トンを中心に考えるべきではないでしょうか。

平成17年8月24日
南浜漁業協同組合
鳥塚 五十三

国土交通省 近畿地方整備局様
淀川水系流域委員会様

平成 17 年 9 月 2 日

山岡久和

天ヶ瀬ダム再開発に伴う資料等について質問

- 質問 1 . 第 45 回委員会の報告資料 2 で「住民と委員との意見交換会の実施報告」で丹生ダム、余野川ダム、川上ダムについては、参加していなくても読めば理解できますが、大戸川ダム、天ヶ瀬ダムについては、発言者の想いが伝わってきません。委員会として全体を一つの資料として統一し、他のダムの報告書のように、もう少し補足した文書に出来なかったのですか？
- 質問 2 . 同じ資料の 7 ページ最終行にある琵琶湖の後期放流が数週間に及ぶことについて、報告されている委員は「そんなことはない。」と発言されましたが、発言者が事実でないことを言っているように聞こえます。河川管理者の提供資料で琵琶湖の水位低下のための放流が（いわゆる「後期放流」）、「数週間の長期間におよぶことがあり、」とありますが、本当はどちらが正しいのですか？
- 質問 3 . 第 4 5 回委員会（審査資料 1 - 6 - 2）「塔の島地区の河道整備について、宇治川下流の治水対策について」お聞きします。
- 1 . 6 番の「引き提案」が亀石上流より右岸を約 5 0 メートルにわたり宇治橋下流を越えて関電の放水路上流まで削る計画になってありますが、地域の歴史にももとづく「環境と文化」を破壊する計画であり、戦前、戦中の国家でなければ、絶対に出来ない計画です。その上、現在の宇治橋は架け替えられて毎秒 1500 立方メートルの放流に対応しています。いつの時点のものでしょうか教えてください。また、委員会はこの計画の説明を受けられましたか？
 - 2 . 7 番の「嵩上げ案」について、このエリアの設定をどんな基準で定められたのですか？「まちづくりと一体となった整備が必要」と書かれていますが、まちづくりのために、どんな制度を導入しようとして計画されたのか教えてください？また、住民の意向をどのようにして調査されたのですか？もし、関係する地域住民がこの計画案に同意されたら実施されますね、そのときの事業費は概算でいくらになりますか？また、完成まで何年の計画ですか？委員会はこの計画についての説明を受けられましたか？
 - 3 . 8 番の「パラペット案」についてすでに右岸は概ねそのように施工されています。左岸側を約 1.7m の高さもある壁を造ることは治水のみを考えた案であり、誰が理解されると考えて検討案としてだされたのでしょうか。この地域は宇治市の観光の中心です。琵琶湖国定公園、特別風致地区、宇治市景観条例でシンボルゾーンに指定されている地域であります。委員会はこの計画の説明を受けられましたか？
 - 4 . 9 番の「バイパス案」について、トンネル部と開水路部がありますが、このルートが最善であるとして検討されたのか疑問です。他にも検討されたものがあれば、

開示していただきたい。また、開水路部は、古い神社やお寺等があり、その上、新しい幹線道路、京阪電鉄宇治駅、JR の高架、並びに既存道路の取り付け等があり、絶対に施工が出来ないことを知って描かれています。何かあるのですか？質問3の1・2・3・4は、当初の河床掘削 3.0m 案から現段階の 0.8m 案までありますが、いずれの案も、どの時点において検討されたものですか？また、委員会はこの計画の説明を受けられましたか？

今回出されたこの4つの代替案の検討は、関係する住民等の理解と協力が出来た場合の嵩上げ案を除けば現実性はありません。掘削量を減らすための、検討案が最も合理性のある案であるかのように見せるために、出来ない案を提示されただけのように感じます。あまりにも案としての調査・検討が不十分であるとおもいます。この際、委員会や多くの住民等の意見を反映させた内容で、再度、調査・検討して、いくつかの案を委員会に提示していただけないでしょうか？

淀川水系流域委員会様

2005年8月

緑と環境をまもる箕面まちづくりセンター

事務局長 岳野興一

余野川ダム中止と猪名川流域の総合治水対策推進について 意見書

最近、豪雨や台風による災害が多発し、災害から生命と財産を守る期待が高まっていますが、今年度の防災治水予算は、対前年比 680 億円減額し、そのなかでも不要なダム建設を推進しようとしています。

このなかで私たちは、余野川ダム中止発表を歓迎するとともにダムに替わる堤防補強などをはじめ、環境にやさしい新しい総合的な地域治水、雨水流出抑制対策などにより猪名川の治水レベルの向上、多田狭さく部と絹延橋など堤区間の整備、流域中小河川の都市水害対策、浸水対策の前進を強く期待しているところです。

ところが、国土省近畿整備局による余野川ダムの代替案の検討は、河道計画と堤防補強などが中心で 21 世紀の検討、明るい検討課題、と少し視野が狭いようであります。

わたしたちは、流域委員会において、猪名川流域の直轄区間をはじめ、その府県・自治体管理の全ての河川において、その河川改修や地域治水で都市水害をなくす防災治水対策は流域の経済的なものであり、必要予算の確保も合わせて次の検討をして頂きますよう意見書を提出いたします。

1. 水害危険エネルギー（潜在的な）これ以上増大させないこと

流域の 43 局の大都市開発計画（猪名川 50 年史）や大規模開発は、社会的にも経済的にも大きく変化しており、これ以上の開発を中止し、猪名川の大洪水や多田水害の要因を拡大させないこと。

かつての高度経済成長時代における、河川改修途上のその上流域の乱開発が、東多田地域の猪名川大洪水の大きな要因の 1 つであり、しっかりと 21 世紀の防災治水対策の教訓に生かすことです。

更なる都市開発は、流域の保水能力・遊水能力を低下させ、余野川ダムによらない猪名川の治水レベルの向上に新たな困難を持ち込むものです。

2. 森林治山のすすめ、社会的サービスの助成のすすめ

豪雨による猪名川などへの洪水負担を抑制・減少させ、治水安全度を向上させるために、治山治水対策計画と全ての流域対策の導入計画づくりが求められています。

針葉樹林の手入れをよくし、広葉樹林を増やして森林の保水能力・涵養水源を向上させる。治山治水対策をすすめ、清流を取りもどし、環境の改善をはかる。

これらの農林業者は、営農を続けることにより、誰からも払いを受けることなく保

水・環境・自然を管理する公共サービスを社会に提供しており、農業や林業を続け災害対策のうえで農林業の果たしている役割を重視し続けるためには、「農林業者の収入を増やすことによって、農山村社会の生活水準を確保・向上できる」その適切な報酬制度を1日も早く確立し、報酬費を払う十分な予算の確保が求められているのである。

3. 近くの雨水流出抑制対策で、浸水対策と未処理下水などの改善

猪名川流域の下水道が普及しても、更なる開発により不浸透域の拡大と田畑の減少で、各地の浸水は解消されず、逆に新たな水害を起こしています。1時間数ミリの雨で、その合流式下水道から川に未処理汚水が混入するため、公衆衛生や水質悪化など河川環境改造の大きな課題です。

未処理混入の公衆衛生問題や、河川水質環境悪化の改善は、合流式下水道へ雨水流入量を減らす校庭貯留や公園・公共敷地、企業や各住宅などに雨水流出抑制（貯留、浸透、雨水利用）対策が効果的だといわれています。

この身近な地域対応と対策により、雨水流出を抑制すれば浸水の解消と河川への雨水流出抑制対策もあり、流域から下水道と協力して重点的に推進すること。また「みんなで守る」ためにも、大雨の時には洗濯をひかえる、風呂の水を流さないことをもってPRすること。

4. 導水トンネルの有効利用効果の大きな、近くの地域治水の促進

ダム設計・調査費と工事費、保持補強費に加え、ダム大堤防（治水）補強と、撤去費も入れたダムのライフサイクルコストは極めて高額です。ダムを寿命から考えればその効果は一時的にしか発揮できず、余野川ダムについて費用対効果の側面から中止すること。

ほぼ完成の導水トンネルを流域調節池としての有効利用を検討し、余野川の50ミリ対策を急ぐとともに、治水レベルの向上を図ること。

災害を「みんなで守る」「自分で守る」「地域（自治体）で守る」ためには、ハザードマップづくりと説明、避難訓練などの「ソフト対策」はもちろん、近くの地域治水の貯留・浸透・ミニダムなど総合的なハード対策を重視して推進すること。

昨年の大水害を契機に「緊急的に対応する具体的施策」として「降雨技術を活用した事前放流などのダム機能をより有効に活用できるように操作ルールを作成」を国土省ホームページにあげています。一庫ダムの利水機能を再検討し、社会経済に合わせて、多田狭さく部の解決まで、暫定事前放流、早期放流をただちに実施し、東多田の水害を減らすよう検討すること。

遠くの大型調節池（約1万㎡）の建設コストが1㎡当たり15～20万円と比較し、各戸貯留・浸透ますや（雨水利用などは1㎡当たり4～5万円と安くて、地元中小建設向けで、地域でお金がまわり、費用や税収効果にもつながるといわれ、その効果は一石三～四鳥にもなるものです。

『又もや不信・不透明の木津川上流河川事務所！』

05.8.21

自然愛・環境問題研究所
総括研究員 浅野 隆彦

意見書 No. 598 『岩倉峡の疎通量のことについて嘘をつき続けるのか』(05.8.1) の中で、598-4 頁に観測流量表を示し、それ迄 22 年間の観測実績のデータを基に、河川管理者自身が不等流計算をし、導き出した水位 - 流量数値〔H5-1 10.50 (m) - 3,630.61 (m³ / s)〕が記載されていることを指摘した。

この平成 5 年の観測流量表は、私の要求に対し、当初、「河道断面が変わっているのに、平成 5 年以前の観測流量表は使用していません。」との理由で、隠されようとした経緯がある。強い要求で出さざるを得なかった。

昨日、8 月 20 日、淀川水系流域委員会木津川上流部会が名張市で開かれた。

終了後、木津川上流河川事務所長 谷崎氏が私に対談を求めた。

「上記、不等流計算書を探したが、見つからない。その為、どのような条件で計算したのか判らないが、今、不等流で計算してみると、あの数値はマチガッていると思うので、今後使わないで貰いたい。」ということが主用件であった。

官庁という所は、公文書の蓄積で成り立っていると言える。観測流量表に計算数値がある場合は、計算書が必ず添付されていなければならない。ズサン管理か、故意のインペイかは、今は知らない。が「今、不等流計算をやり直して確かめようとしている。学者先生（現、流域委員を含む）に監修して貰ってから示したい。」ということであったが、現、流域委員は公平な立場を維持する為、委員会に提出される迄は一切手伝ってはならない事をご承知のことと思う次第である。

このようなテイタラクの河川管理者を、さてどう見るべきか？！

淀川水系流域委員会殿

川上ダムの利水代替案 (その2)

(農水施設の利用)

平成17年8月19日

「関西のダムと水道を考える会」

(代表) 野村東洋夫

[要旨]

「青蓮寺用水土地改良区」では青蓮寺ダムから農業用水を引いているが、その施設能力に $0.3\text{m}^3/\text{s}$ 以上の余裕がある。他方、「大阪市」は青蓮寺ダムに参画して得た $1.035\text{m}^3/\text{s}$ の水利権を所有するものの、大幅な水余り状態にある。従って三重県が大阪市からこの内の $0.3\text{m}^3/\text{s}$ を譲り受け、これを土地改良区の用水施設経由で木津川に放流すれば、これが川上ダムに代って「伊賀水道」の水源になり得る。

。。。。。。

A, 「青蓮寺用水土地改良区」の施設能力・水利権

旧上野市と名張市にまたがる広大な地域を対象に、国営総合農地開発事業として昭和43年から「青蓮寺開拓建設事業」が旧農林省により実施され、同61年の完了時にその管理を受け継いだこの土地改良区は(→資料1、資料2-1,2)、同45年に完成した青蓮寺ダムから用水の供給を受けていますが、その水利権量の規定値は年間の時期によって変動があり、代掻き～田植期の5/11～6/10(以下では「田植期」と言う)において最大値の $1.86\text{m}^3/\text{s}$ 、他の時期についてもそれぞれの時期ごとに別紙の通り規定されています(→資料2-4下段)。そしてこの用水に必要な取水工や幹線水路などの施設の方は、当然のことですが最大値 $1.86\text{m}^3/\text{s}$ の水量を送れるように建設されています(→資料2-6)。

これらの事実から分ることは、田植期を除けば $1.86\text{m}^3/\text{s}$ の施設能力に余裕があるということで、田植期を除いて最もタイトな6/11～7/31(水利権量 $1.52\text{m}^3/\text{s}$)においても余裕量が $0.34\text{m}^3/\text{s}$ ($=1.86-1.52$)となり、河川管理者が伊賀水道に必要な水源量として算出した値($0.304\text{m}^3/\text{s}$)を上回ります。

残る問題はこの田植期ということになりますが、実は私達がこの土地改良区の関係者から聞いた所では、確かにこの改良区の水田面積は600ha余りもあり、この時期には大量の水を必要としますが、水田の中には青蓮寺ダムからの用水以外に、近傍の溜池や河川の水を併用しているものもあるため、田植期における実際の取水量は $1.1\text{m}^3/\text{s}$ 程度とのことでした。つまりこの時期においても施設能力との間に約 $0.75\text{m}^3/\text{s}$ ($=1.86-1.1$)の余裕がある訳です。以上のことからこの改良区の用水施設は一年を通して $0.304\text{m}^3/\text{s}$ 以上の余力を持っていることとなります。

また、私達がこの改良区の現状を見て回った印象では、水田は兎も角も、畑地の方ほどの

ような事情があったのか、ざっとその半分が耕作されずに放置された状態ですので、用水量の実態は、田植期以外の時期においても前記の“時期ごとの水利権量の規定値”をかなり下回っているのではないかと思われました。

(なお、水利権の最大値が最近では当初の 1.86m³/s から 1.72m³/s に変更されているようですが、施設能力の方は現在も当初のままの 1.86m³/s ですから、このことは上記の議論には影響しませんので念のため)

B, 年間総取水量の規制

以上のように、用水の施設能力としては通年 0.304m³/s 以上の余力がある訳ですが、この土地改良区と青蓮寺ダムとの間には、前述の“時期ごとの水利権量の規定”の他に、年間総取水量 (9,300 千 m³) の制限がありますので、施設の方は良いとして、水利権についても現状の枠のままで配水量を 0.304m³/s 増量することが可能かと言えば、恐らくそれは困難で、新たな水利権設定が必要となると思われまます。

C, 青蓮寺ダムと「大阪市」

河川管理者提供資料によれば (→資料 3-1,2,3)、青蓮寺ダムにより開発された水利権は次の通りです。

1) 阪神地区上水

・大阪府	0.839m ³ /s
・ <u>大阪市</u>	<u>1.035</u>
・守口市	0.019
・枚方市	0.051
・阪神水道	0.309
・尼崎市	0.047

(小計) 2.300m³/s

2) 名張市上水 0.190m³/s

3) 名張地区特定かんがい 1.860m³/s (←※青蓮寺用水)

私達が以前に貴委員会に提出した意見書にも記しましたように (→水需要管理WG (H14,8,7)資料 2-3)、この中で最も大幅に水利権を余らせているのが「大阪市」であり、同市は青蓮寺ダム・高山ダム・琵琶湖開発などへの参画により、現在 30.976m³/s という淀川水系最大の水利権を持ちながら、その 1/3 に相当する約 10m³/s を余らせていますから、青蓮寺ダム 1.035m³/s の内の 0.304m³/s を三重県に譲ったとしても、同市が水利権不足に陥る恐れは皆無と言えます。

D, 川上ダム利水代替案

以上の事実から私達は、川上ダムの利水代替案として次の案が成り立つと考えます。即ち

- 1) 大阪市が青蓮寺ダムに持つ水利権の一部 (0.304m³/s) を三重県が譲り受ける
- 2) 三重県がこの水量を、青蓮寺用土地改良区の用水施設を使用して適当な地点まで導水する

(私達の試案としましては、伊賀水道の取水点が木津川～矢田川合流点の直下流であることから、この水を同改良区の「下流調整池」から「矢田川」経由で木津川に放流するのが良いのではないかと考えております (→資料1))

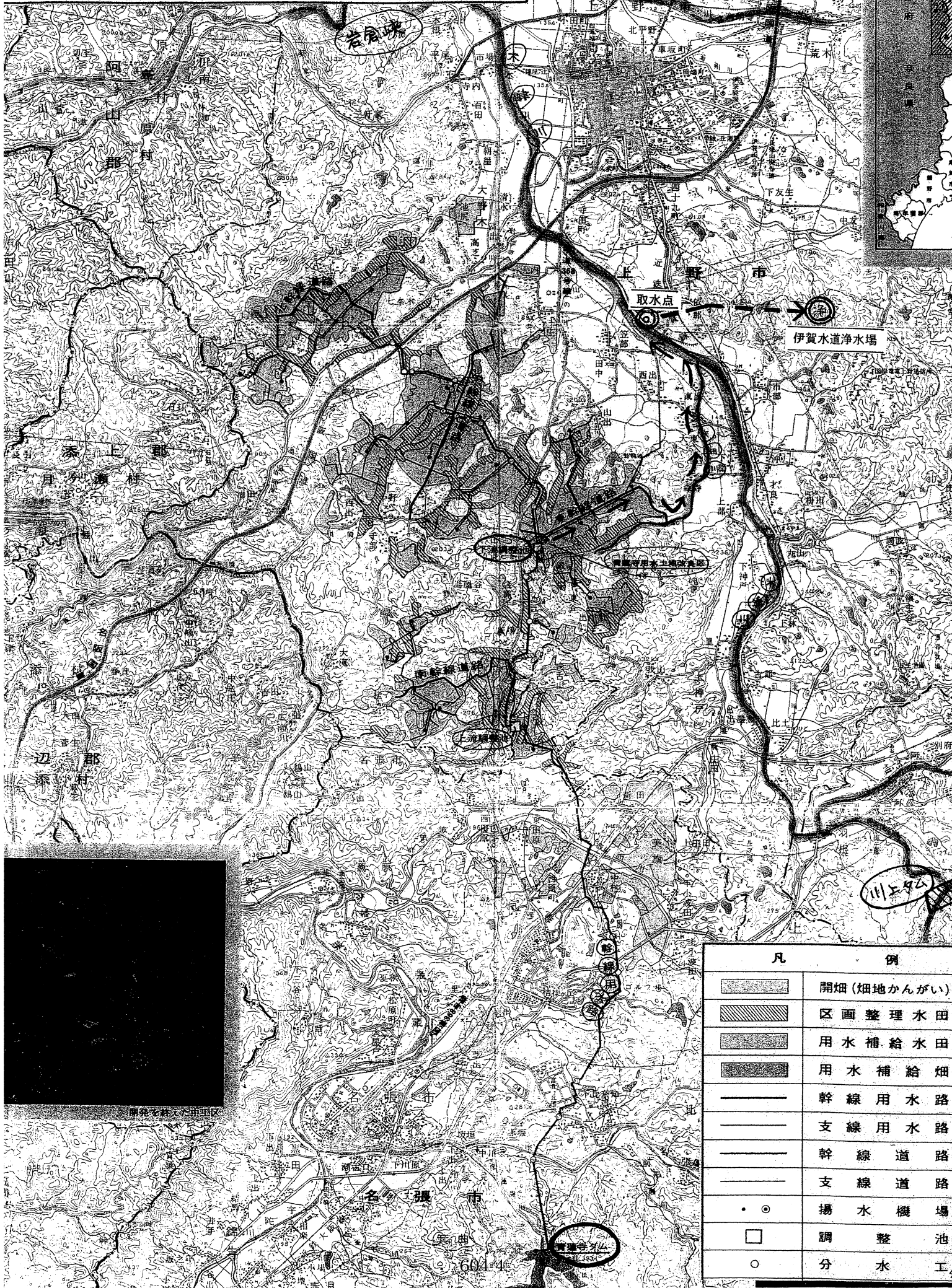
勿論、これの実現には農水省や土地改良区、大阪市や三重県、河川管理者等、関係機関の協力・調整や費用負担の問題など、そのハードルは決して低くはないでしょうが、しかしこの案の場合は大部分が既存施設と既得水利権の利用で済み、一部小規模な土木工事の発生は避けられないとしても、ダムなど大規模なインフラの建設を殆んど必要としないという大きなメリットがあります。言わば“環境や財政にやさしい案”と言えますので、是非とも貴委員会での検討・審議をお願い致します。

(以上)

青蓮寺地区計画一般平面図

1969年 関西の七日水通を考へる会 野村東洋大氏
(青蓮寺用水土地改良区)

[資料1]



凡 例	
	開畑 (畑地かんがい)
	区画整理水田
	用水補給水田
	用水補給畑
	幹線用水路
	支線用水路
	幹線道路
	支線道路
	揚水機場
	調整池
	分水工

青蓮寺用水の概要

青蓮寺用水土地改良区



青 蓮 寺 用 水 土 地 改 良 区

〒518-1142 三重県上野市古山界外691-2
TEL(0595)39-0771、39-0578
FAX (0595)39-1040

(事業主体：東海農政局青蓮寺開拓建設事業)

事業概要

本地区は、三重県の西端に位置し、淀川水系木津川上流の名張川沿岸に開けた伊賀盆地の南部にあたり、上野市、名張市にまたがる地区である。

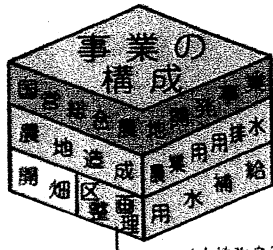
本事業は、当地域の農業経営基盤の整備拡張を図り、中核農家の育成を目的として、淀川水系水資源開発計画に基づき、水資源開発公団が実施した多目的青蓮寺ダムに水源を求め、開発可能地836haから525haの畑地を造成し畑地かんがいを行うとともに、開畑地に隣接する水田270haの区画整理を附帯土地改良工事として一体的に行い、さらに開畑地と隣接する既存の農地618haに用水補給するため農業用排水事業を併せ、国営総合農地開発事業として、昭和43年から工事着手し苦節18年の末ようやく総事業費約190億円で事業完了したものである。

事業経緯

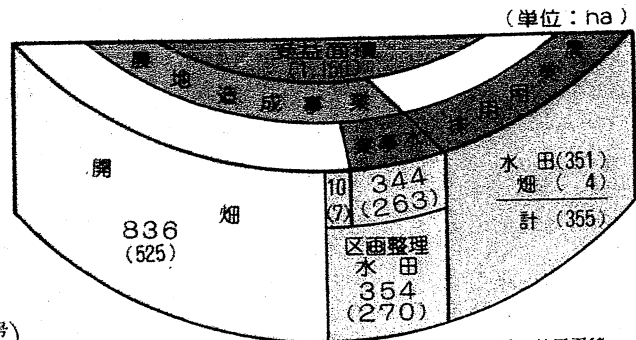
昭和36年度～39年度	多目的ダム関連調査他
昭和40年	開拓基本計画樹立地域の決定
昭和40年度～41年度	地区調査
昭和42年度	全体実施設計
昭和43年	開拓基本計画樹立の決定
〃	青蓮寺用水土地改良区設立
〃	青蓮寺開拓建設事業所開設
昭和44年	本格工事開始
昭和45年	青蓮寺ダム完工（水資源開発公団S. 41.3～）
昭和50年	水利権取得
昭和51年	特別会計に振替
昭和56年	青蓮寺営農対策本部設置
昭和61年	変更水利権取得
	青蓮寺開拓建設事業完了
(4月)	青蓮寺用水土地改良区へ管理委託開始

地区及び受益面積

1. 事業の構成と受益面積



(土地改良法第二条第2項第3号に規定する新3号事業)



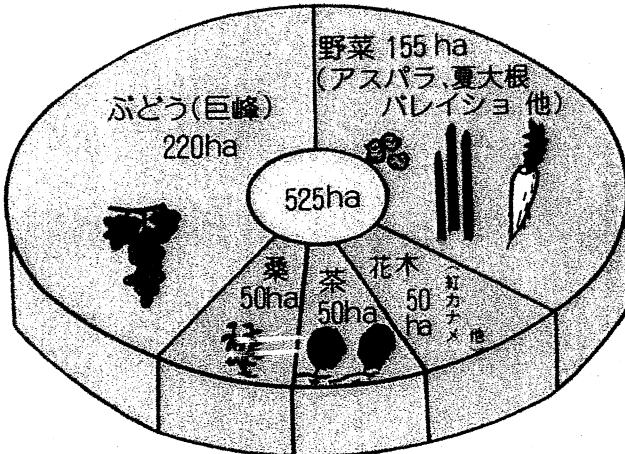
() 外 地区面積
○ 内 受益面積

一般計画

1. 営農

(1) 開畑地作付計画

区分	上野市	名張市	計
開畑	514.4ha	10.6ha	525.0ha
区画整理	262.6ha	7.4ha	270.0ha
灌漑(畑)	514.4ha	14.6ha	529.0ha
(田)	370.0	244.0	614.0

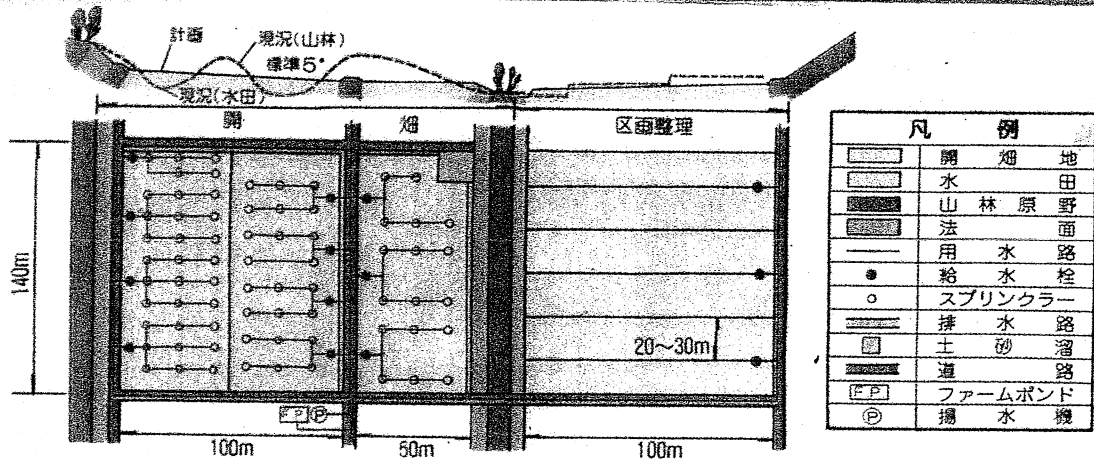


2. 農地造成

上記営農計画に基づき、農地造成を将来の機械化営農に対応し、下図に示すとおり開畑と水田区画整理については開畑地の造成勾配は標準5°、区画整理水田の標準区画を20a 又は30a とした。

3. 畑かん施設等

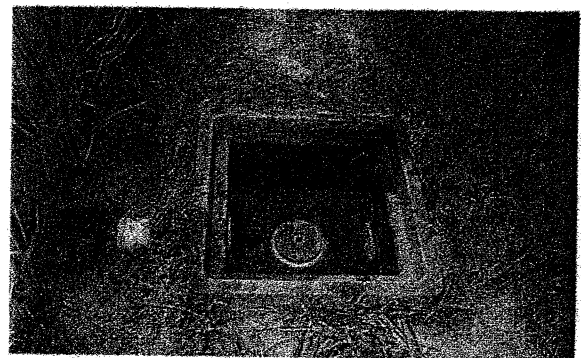
名称	数量	かんがい面積	最大所要水量	型式等
揚水機	26ヶ所	4~44ha	0.004~0.040m ³ /s	多段式渦巻ポンプ他
圃場内配管	525ha	—	30mm/6日間断	樹園地(固定式スプリンクラー) 普通畑(地上固定式スプリンクラー)



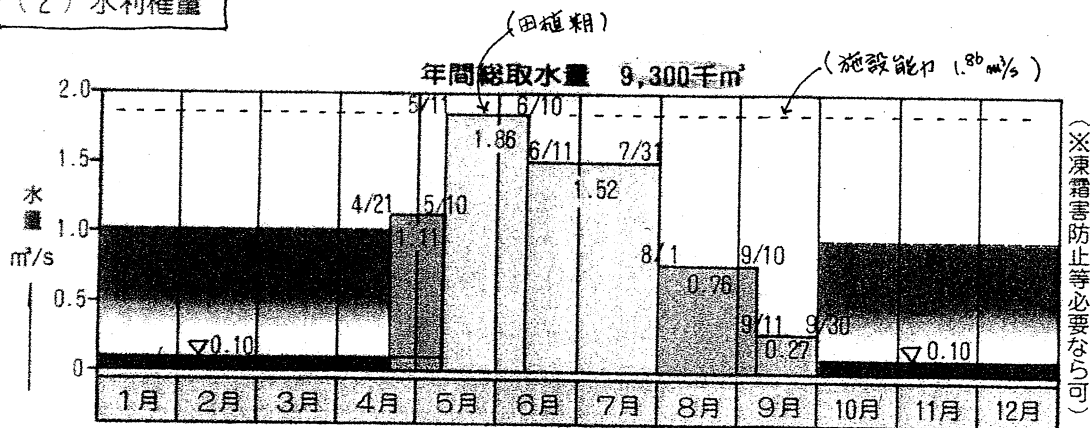
用水

(1) 諸元等

かんがい面積 1,143ha	
畑地 529ha	水田 614ha
開畑地 525ha	区画整理田 未
既畑地 4ha	本他整理 263ha
	兼業田 20.3ha
	149ha
適年	早期 4/21~7/31
	普通期 6/1~9/10
日消費量 2~5mm	代かき 130,100mm
開断日数 6日	減水深 15,13,10mm
	1,759千m ³
	3,516千m ³
	5,719千m ³

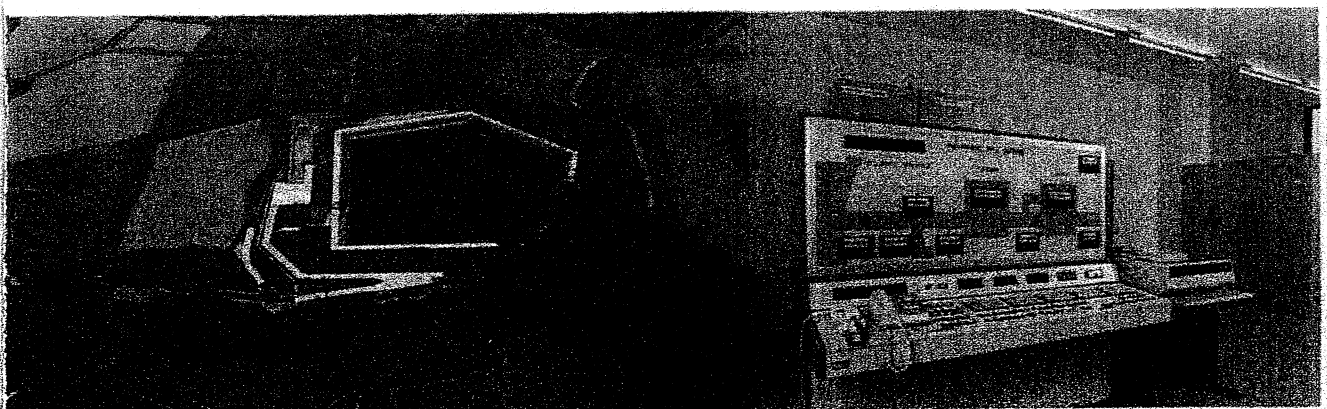


(2) 水利権量



(3) 用水計画

分水工名	面積		代掻時用水			常時用水			備考
	畑	田	畑	田	計	畑	田	計	
	ha	ha	m ³ /s	m ³ /s	m ³ /s	m ³ /s	m ³ /s	m ³ /s	
中川原分水工	—	0.8	—	0.002	0.002	—	0.001	0.001	
三ツ池分水工	—	26.0	—	0.059	0.059	—	0.041	0.041	
梅ノ木分水工	—	7.3	—	0.016	0.016	—	0.011	0.011	
よき峠分水工	—	16.0	—	0.032	0.032	—	0.021	0.021	
徳明分水工	4.0	178.1	0.003	0.430	0.433	0.003	0.311	0.314	既畑
南古山分水工	14.7	21.2	0.010	0.056	0.066	0.012	0.041	0.053	支線-0号
安場分水工	59.5	54.2	0.041	0.127	0.168	0.051	0.092	0.143	支線-1号
安場東分水工	—	1.2	—	0.003	0.003	—	0.002	0.002	
蔵縄手第一分水工	3.5	9.2	0.002	0.025	0.027	0.003	0.018	0.021	支線-2号
蔵縄手第二分水工	—	6.6	—	0.018	0.018	—	0.013	0.013	
二鶏第一分水工	20.2	47.3	0.014	0.119	0.133	0.017	0.086	0.103	支線-2号
二鶏第二分水工	79.9	23.4	0.054	0.058	0.112	0.068	0.042	0.110	支線-3号
二鶏第三分水工	—	0.7	—	0.001	0.001	—	0.001	0.001	
菟浦池東分水工	—	2.8	—	0.007	0.007	—	0.005	0.005	
菟浦池西分水工	—	16.6	—	0.042	0.042	—	0.030	0.030	
上出分水工	58.5	22.7	0.040	0.059	0.099	0.050	0.043	0.093	支線-4号
松橋分水工	20.7	—	0.014	—	0.014	0.018	—	0.018	
永谷分水工	—	16.7	—	0.045	0.045	—	0.033	0.033	
柿ノ木分水工	36.9	4.3	0.025	0.012	0.037	0.031	0.009	0.040	支線-5号
予野北分水工	51.7	36.0	0.035	0.088	0.123	0.044	0.063	0.107	支線-6号
予野分水工	41.3	2.5	0.028	0.007	0.035	0.035	0.005	0.040	
予野第一分水工	20.5	25.7	0.014	0.054	0.068	0.017	0.038	0.055	支線-7号
七本木第三分水工	—	6.2	—	0.011	0.011	—	0.006	0.006	
ラサブ分水工	—	3.0	—	0.008	0.008	—	0.006	0.006	
七本木分水工	—	4.8	—	0.013	0.013	—	0.010	0.010	
大沢分水工	—	1.4	—	0.004	0.004	—	0.003	0.003	
中山分水工	20.5	—	0.014	—	0.014	0.017	—	0.017	
法花分水工	97.1	79.3	0.066	0.200	0.266	0.083	0.144	0.227	支線-8-9号
合計	4.0	ha	m ³ /s	m ³ /s	m ³ /s	m ³ /s	m ³ /s	m ³ /s	
	525.0	614.0	0.360	1.500	1.860	0.449	1.075	1.524	



(上流調整池)

(中央管理所操作室)

施設の概要

名称	数量	施設規模等	型式・構造等
※ 取水工	取水バルブ1ヶ所 静水池 1ヶ所	$Q_{max}=1.86m^3/Sec$ $\Sigma Q = 930万m^3(年間)$	ホロージェットバルブφ750MM 1台
※ 幹線水路	L=18.5 km	$Q_{max}=1.86\sim 0.27m^3/Sec$	トンネル、コンクリート暗渠、PC管他
調整池	2ヶ所	上流 V=11,000m ³ 下流 V=24,000m ³	型式：土堰堤 止水工法：ゴムシートライニング
支線水路	(0号～9号) L=21.0 km	灌漑面積10～114 ha $Q_{max}=0.027\sim 0.107m^3/Sec$	VP管他(φ75～400) 揚水機4ヶ所 水中、多段渦巻(φ65～150)
中央管理所	1 棟	床面積 330.32m ²	鉄筋コンクリート造平家建
水管理施設	1 式		有線による監視、制御
揚水機	26ヶ所	灌漑面積4～44 ha $Q_{max}=0.004\sim 0.040m^3/Sec$	多段渦巻ポンプ他
畑かん施設	1 式	圃場内配管 525ha 30mm/6日間断	樹園地(固定式スプリンクラー) 普通畑(地上固定式スプリンクラー)
水田用水路	1 式	灌漑面積 618ha	VP管他(φ75～400)
砂防施設	72ヶ所		型式：コンクリートタイプ、アースタイプ
幹線道路	4 条	L=12.0km	アスファルト舗装 B=4.5～5.5m
支線道路	31 条	L=29.9km	アスファルト舗装 B=3.0m
耕作道路	1 式		砂利舗装 有効幅員B=2.0m
排水路	47 条	L=37.8km	コンクリートブロック及びプレハブ水路

管理の概要

I 管理区分

青蓮寺開拓建設事業で、造成された施設については、管理委託協定にもとづき、青蓮寺用土地改良区が主体となり、管理を行っています。

II 管理施設の概要

1) 水管理施設

農業用水の有効かつ適切な配水を行うため、水管理施設(親局1、子局4)による、管理機能を取り入れた監視制御を行っています。

2) 幹支線水路

青蓮寺ダムよりの取水及び調整池(2ヶ所)の水位操作は、中央管理所(親局)で、監視制御を行い、適切な取水量をコントロールしながら、随時、パトロール車で、水路の巡視を行い水路の安全を監視しています。

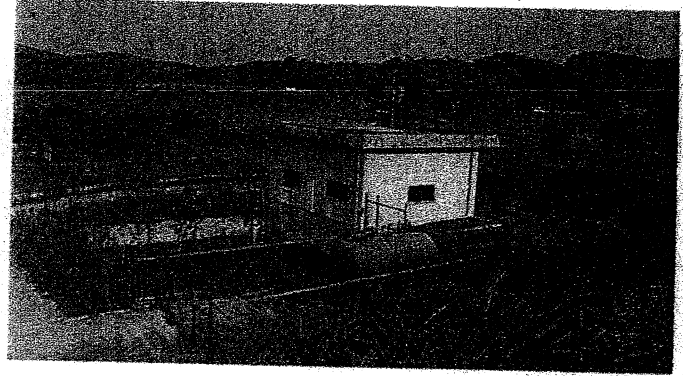
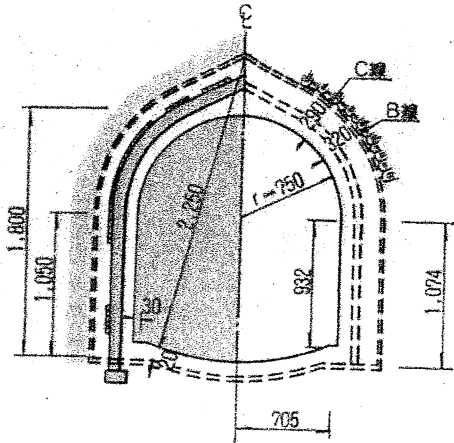
3) 分水工

取水量の申込に応じた必要な分水工施設の操作、及び取水状況の把握を行っています。

4) 畑かん施設

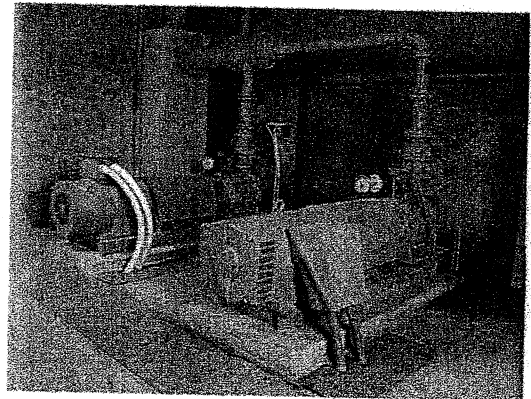
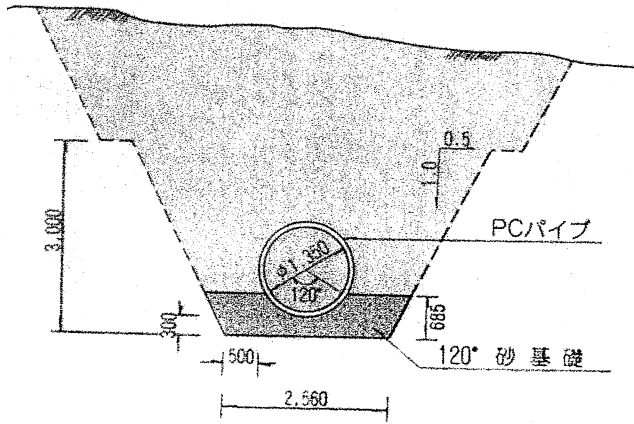
揚水機場26ヶ所、圃場内配管施設の操作及び取水状況の把握、散水施設の巡視を行っています。

施工標準断面図



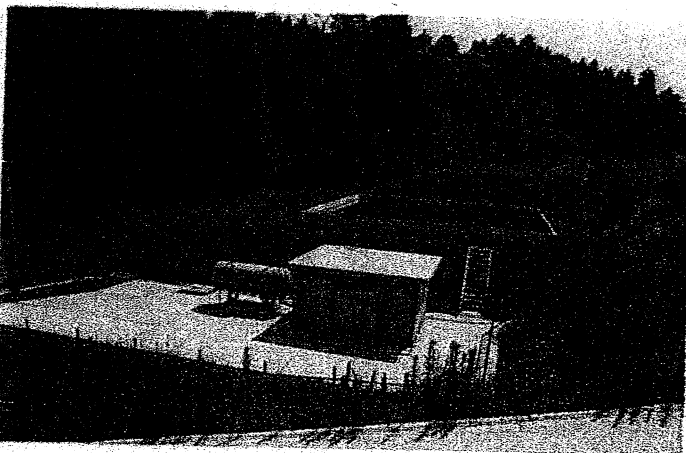
(安場揚水機場)

トンネル

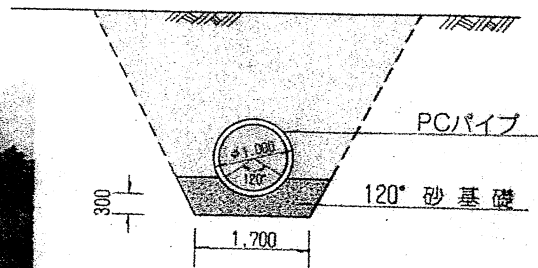


(揚水ポンプ)

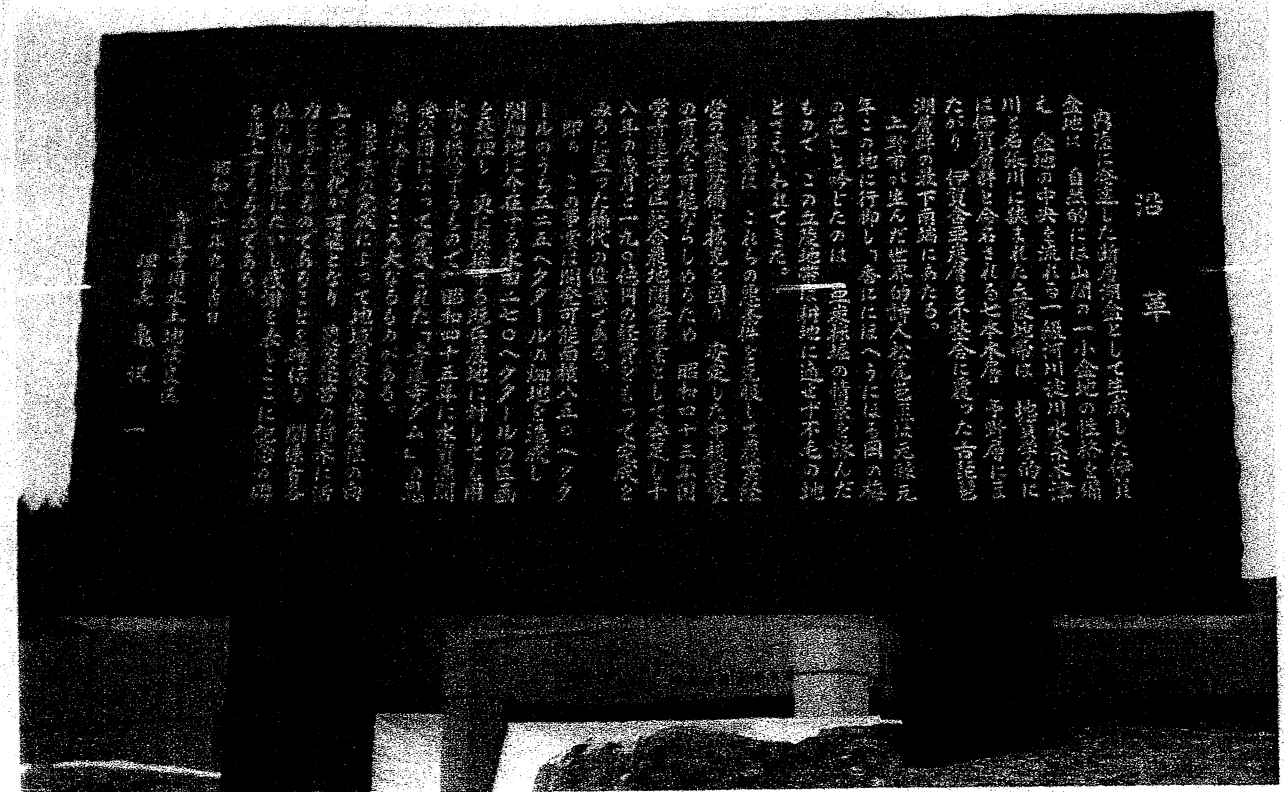
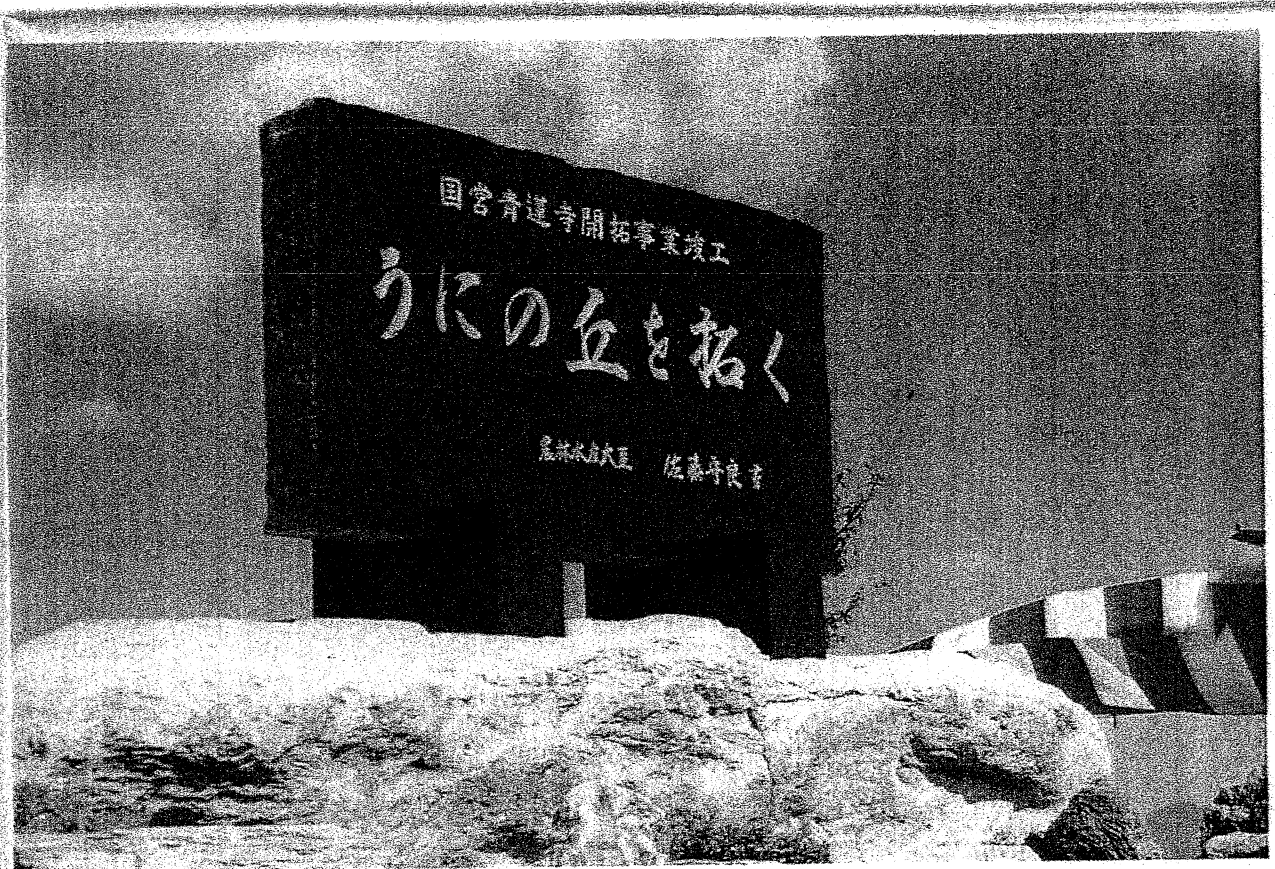
サイホン



(芋谷揚水機場)



サイホン



各利水者の淀川水系における水源施設等(直轄及び公団管理)

[資料3-1]

総建設費 水資源開発公団所管(特定施設)は、公団発行のパンフレットから抜粋
 第一期河水統制は、淀川百年史より抜粋
 大戸川、天再、余野川ダムは、基本計画より抜粋

負担率 水資源開発公団所管(特定施設)は、事業実施方針から抜粋
 第一期河水統制は、淀川百年史より抜粋
 大戸川、天再、余野川ダムは、基本計画より抜粋
 ※第一期河水統制は、大阪府・大阪市・阪水で負担した
 ※長柄可動堰は、大阪府・大阪市・阪水で負担した

注)

1. 利水者の負担額は上記資料から、総建設費×負担率で算出した
 (実際の支払額は、償還方法によって負担額と同じにならない場合もある)
2. 利水者の負担額には厚生労働省からの補助金も含んでいる。

水利使用者	水源と開発配分量(m3/s)	総建設費(概算額)	利水者の負担額	備考	
大阪府 上水	第一期河水統制	2,500	約2.4億円	約0.2億円	
	長柄可動堰	1,520	約8億円	約1億円	
	高山ダム	1,824	約115.6億円	約17億円	
	青蓮寺ダム ※	0,839	約73.7億円	約9億円	
	正蓮寺川利水	1,773	約51.6億円	約11億円	
	琵琶湖開発	15,753	約3527.6億円	約1110億円	
	日吉ダム	1,576	約183.6億円	約30.7億円	
	既設ダム計	25,785			
	(丹生ダム)	(2,474)	約1100億円	約381億円	
	(大戸川ダム)	(0,400)	約740億円	約74億円	
計画ダム計	(2,874)				
合計	28,659		約1910億円		
大阪市 上水	河水前(自流)	10,600			
	第一期河水統制	6,000	約2.4億円	約0.4億円	
	長柄可動堰	1,420	約8億円	約1億円	
	高山ダム	2,249	約115.6億円	約21億円	
	青蓮寺ダム ※	1,035	約73.7億円	約11億円	
	正蓮寺川利水	2,187	約51.6億円	約13億円	
	琵琶湖開発	7,485	約3527.6億円	約527億円	
	合計	30,976		約574億円	
守口市 上水	河水前(自流)	0,121			
	第一期河水統制	0,180	約2.4億円	約0億円	大阪府に含まれる
	長柄可動堰	0,040	約8億円	約0億円	大阪府に含まれる
	高山ダム	0,041	約115.6億円	約0.4億円	
	青蓮寺ダム ※	0,019	約73.7億円	約0.2億円	
	正蓮寺川利水	0,040	約51.6億円	約0.2億円	
	琵琶湖開発	0,281	約3527.6億円	約20億円	
	合計	0,722		約21億円	
枚方市 上水	河水前(自流)	0,250			
	第一期河水統制	0,080	約2.4億円	約0億円	大阪府に含まれる
	長柄可動堰	0,110	約8億円	約0億円	大阪府に含まれる
	高山ダム	0,112	約115.6億円	約1億円	
	青蓮寺ダム ※	0,051	約73.7億円	約1億円	
	正蓮寺川利水	0,109	約51.6億円	約1億円	
	琵琶湖開発	0,793	約3527.6億円	約56億円	
合計	1,505		約58億円		
寝屋川市 上水	河水前(自流)	0,009			
	第一期河水統制	0,151	約2.4億円	約0億円	大阪府に含まれる
	合計	0,160		約0億円	
吹田市 上水	第一期河水統制	0,350	約2.4億円	約0億円	大阪府に含まれる
	合計	0,350		約0億円	
池田市 上水	一庫ダム	0,365	約632.4億円	約35億円	
	合計	0,365		約35億円	
箕面市 上水	(余野川ダム)	0,118	約500億円	約15億円	
	合計	0,118		約15億円	
豊能町 上水	一庫ダム	0,097	約632.4億円	約9億円	
	合計	0,097		約9億円	

各利水者の淀川水系における水源施設等（直轄及び公団管理）

総建設費

水資源開発公団所管（特定施設）は、公団発行のパンフレットから抜粋
第一期河水統制は、淀川百年史より抜粋
大戸川、天再、余野川ダムは、基本計画より抜粋

負担率

水資源開発公団所管（特定施設）は、事業実施方針から抜粋
第一期河水統制は、淀川百年史より抜粋
大戸川、天再、余野川ダムは、基本計画より抜粋
※第一期河水統制は、大阪府・大阪市・阪水で負担した
※長柄可動堰は、大阪府・大阪市・阪水で負担した

注)

1. 利水者の負担額は上記資料から、総建設費×負担率で算出した
(実際の支払額は、償還方法によって負担額と同じにならない場合もある)
2. 利水者の負担額には厚生労働省からの補助金も含んでいる。

水 利 使用 者	水源と開発配分量(m3/s)		総建設費 (概算額)	利水者の負担額	備 考
兵庫 県 上水	一庫ダム	1.922	約632.4億円	約183億円	
	合計	1.922		約183億円	
阪 神 水 道 企 業 団 上 水	河水前(自流)	1.675			
	第一期河水統制	3.675	約2.4億円	約0.1億円	
	長柄可動堰	0.965	約8億円	約1億円	
	高山ダム	0.672	約115.6億円	約6億円	
	青蓮寺ダム ※	0.309	約73.7億円	約3億円	
	正蓮寺川利水	0.654	約51.6億円	約4億円	
	琵琶湖開発	5.114	約3527.6億円	約360億円	
	日吉ダム	0.754	約1836億円	約147億円	
	既設ダム計	13.818			
	(丹生ダム)	(0.556)	約1100億円	約86億円	
	(余野川ダム)	(1.042)	約500億円	約138億円	
	計画ダム計	(1.598)			
合計	15.416		約745億円		
尼 崎 市 上 水	河水前(自流)	0.417			
	長柄可動堰	0.095	約8億円	約0億円	阪水に含まれる
	高山ダム	0.102	約115.6億円	約1億円	
	青蓮寺ダム ※	0.047	約73.7億円	約1億円	
	正蓮寺川利水	0.099	約51.6億円	約1億円	
	琵琶湖開発	0.236	約3527.6億円	約17億円	
合計	0.996		約19億円		
川 西 市 上 水	一庫ダム	0.116	約632.4億円	約11億円	
	合計	0.116		約11億円	
伊 丹 市 上 水	琵琶湖開発	0.371	約3528億円	約26億円	
	日吉ダム	0.21	約1836億円	約41億円	
	合計	0.581		約67億円	
西 宮 市 上 水	琵琶湖開発	0.136	約3527.6億円	約10億円	
	既設ダム計	0.136			
	(川上ダム)	(0.211)	約850億円		負担率未記入
	計画ダム計	(0.211)			
合計	0.347		約10億円		

総建設費 水資源開発公団所管（特定施設）は、公団発行のパンフレットから抜粋
 第一期河水統制は、淀川百年史より抜粋
 大戸川、天再、余野川ダムは、基本計画より抜粋

負担率 水資源開発公団所管（特定施設）は、事業実施方針から抜粋
 第一期河水統制は、淀川百年史より抜粋
 大戸川、天再、余野川ダムは、基本計画より抜粋
 ※第一期河水統制は、大阪府・大阪市・阪水で負担した
 ※長柄可動堰は、大阪府・大阪市・阪水で負担した

注)

1. 利水者の負担額は上記資料から、総建設費×負担率で算出した
 （実際の支払額は、償還方法によって負担額と同じにならない場合もある）
2. 利水者の負担額には厚生労働省からの補助金も含んでいる。

水 利 使用 者	水源と開発配分量 (m ³ /s)	総建設費 (概算額)	利水者の負担額	備 考	
京都府 上水	日吉ダム	1.16	約1836億円	約225億円	
	比奈知ダム	0.6	約952億円	約156億円	
	天ヶ瀬ダム	0.3	約66.7億円	約1億円	
	既設ダム計	2.060			
	(丹生ダム)	(0.200)	約1100億円	約31億円	
	(大戸川ダム)	(0.100)	約740億円	約19億円	
	(天ヶ瀬再開発)	(0.600)	約330億円	約29億円	
	計画ダム計	(0.900)			
合計	2.960		約461億円		
大津市 上水	(大戸川ダム)	(0.012)	約740億円	約2億円	
	合計	(0.012)		約2億円	
奈良県 上水	室生ダム	1.600	約97.3億円	約29億円	
	既設ダム計	1.600			
	(川上ダム)	(0.300)	約850億円		負担率未記入
	計画ダム計	(0.300)			
合計	1.900		約29億円		
奈良市 上水	布目ダム	1.080	約602億円	約305億円	
	比奈知ダム	0.600	約952億円	約156億円	
	合計	1.680		約461億円	
山添村 上水	布目ダム	0.010	約602億円	約2億円	
	合計	0.010		約2億円	
都祁村 上水	布目ダム	0.046	約602億円	約11億円	
	合計	0.046		約11億円	
三重県 上水	(川上ダム)	(0.500)	約850億円		負担率未記入
	合計	0.600		約0億円	
名張市 上水	青蓮寺ダム ※	0.190	約73.7億円	約2億円	
	比奈知ダム	0.300	約952億円	約36億円	
	合計	0.490		約38億円	

603 伊賀・水と緑の会 畑中昭子氏

淀川水系流域委員会様

「川上ダムはいりません パート3」の件

伊賀・水と緑の会
畑中昭子

猛暑の中、お疲れ様でございます。

伊賀・水と緑の会は、2005年8月「川上ダムはいりません パート3」を発行致しましたので、資料として貴委員会に送付させていただきます。
よろしく願い申し上げます。

パート 3

川上ダムはいりません

新河川法は住民の声を大切に

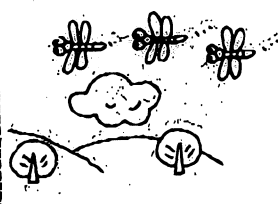
河川整備計画を策定していく段階で、自然環境に配慮すること、流域住民の声を聴取し、計画に反映させることが定められました。従来ですと河川が一方的に河川整備計画を作り、工事を進めてきました。その内容はダム建設が優先で治水といえども、利水といえども、全国で大小 2,700 を超えるダム建設が行われてきましたが、年月を経て多くの弊害も出てきたのです。将来ダムは巨大な産業廃棄物になる、との指摘に私たち住民は真剣に考えなくてはならない課題でしょう。

淀川水系流域委員会の提言は「考える全ての代替案の検討のもとで、ダム以外に実行可能で有効な方法がないということが客観的に認められ、かつ住民団体・地域組織などを含む住民の社会的合意が得られた場合に限り建設するものとする」としています。川上ダム事業継続実施するとの方針に対し、この提言をただ「聞き届けだけ」なのかと厳しい意見が殺到したのです。新河川法の趣旨を近畿地方整備局・河川管理者は真剣に受け止めることが大事です。



伊賀地域の自然や環境を守り

子どもたちの未来に水と緑を



洪水対策に疑問

- 淀川水系流域委員会は当初から「川上ダムは集水域が小さく洪水調節効果が限定的」だと指摘している。
- ★ ダム上流は岩倉峠に入る全体の集水域から見てわずか 11%に過ぎない。川上ダム上流に雨が集中して降るとは限らない。過去の降雨実績を見てもダムから外れている場合が多い。
 - ★ 岩倉峠の疎通量は大きな計算の食い違いがある。近畿地方整備局の提出した資料では島ヶ原地点ピーク流量 4.149 m³/秒(到達量)としている。岩倉峠残流量 4.99%を差し引いても 3.967 m³/秒流れると専門家は指摘している。
 - ★ この疎通量と上野遊水地(湛水量 900 万m³)を併せたら越流量を超える洪水は起こらない。過去最大の雨嵐も 2 時間のピーク時を過ぎればダムなしでも浸水被害を軽減できる。

水はダム以外の方法で

奈良県、兵庫県西宮市が川上ダムからの水需要撤退により「川上ダムは規模を縮小して実施する」との方針ですが、治水容量、利水容量、堆砂容量、建設費用負担など全ての項目について数値を示していません。近畿地方整備局は「現時点では計画内容が確定しないので具体的な数値等については答えられない。今後関係者と調整を行って計画内容が確定した段階で説明する」と述べています。

利水は「三重県・伊賀用水に必要」との説明も当初計画の 48,500 m³/日から 28,750 m³/日に 40%削減してきています。河川管理者はさらに 5,000 m³/日削減可能としています。流域委員と住民も、この程度の水であれば他の方法を真剣に検討するべきとし、伊賀・水と緑の会も伊賀水道のループ案、木津川表流水・水利権認可、伏流水、井戸掘削等々提案し、集中巨大化するより、また遠くの水より近くの水を大切にというのが私達の主張です。

自然環境を大切に

孫の代に悔いを残さない、自然環境は今を生きる我達より次世代に引き継いでいくことが大変重要です。ダム建設は連続していた水系を分析します。上流では治水容量を造る事によって、水質の悪化、土砂の崩落・堆積を招く。下流では水量の枯渇と濁水、河床の低下、渇と洲の減少、河床の固結等々自然環境の破壊・汚染という面から見る限り、ダムの評価は全てマイナスです。生物に与える影響も、天然記念物のオオサンショウウオや絶滅危惧種のオオカキに与える被害もさることながら、普通の魚や昆虫がいなくなるといふことはいすれ我々もすめなくなるといふことです。

ダム建設が始まった頃は環境に対する配慮がなく、人間生活優先でした。数十年経った今、ダム建設の弊害がいたるところでおきています。近くの高山ダムもその一つです。川上ダム建設を具体的に見ていきますと、牛堀系保土は著しく軽視され、サンショウウオは上流に移転させ、オオカキの遺棄は避けて道路を造るといふことから死傷作業等を行う工事現場がかなり広がっています。「自然環境は一度壊れてしまうと元に戻らない」がみしめたい言葉です。

地質や断層の不安

三重県防災危機管理課から、「わが家の防災情報シート」が7月に配布されました。三重県の主要な活断層の観測位置、東海・東南海・南海地震同時発生時に予想される震度と津波の高さが示されています。川上ダム建設予定地周辺は震度5強、指定活断層・活断層が上下に示されています。

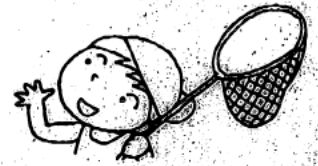
現在、桐ヶ丘団地には 1,765 戸、5,608 人が入居、阿高山野人口 12,000 人余の半影近くになります。桐ヶ丘団地の周辺では 300m のところがダム湖となり団地の低いところはダム満水時には水より 1m 低くなります。周辺整備事業など付け替え県道工事でもしばしば土砂崩れで工事の中断、期間延長される事があり、山を切ると山崩れ、地すべりを起します。奈良県川上村に建設の大滝ダム、白原地区はダムが洪水により地滑り発生、全戸集団移転という事になりました。その大滝ダムは運用が開始されず、未だ原因の解明もなされておらず、活断層や地質の心配のあるところにダム建設は避けるべきです。

税金は国民のために

川上ダム建設について、当初計画 850 億円のうち現在使った金額は 496 億(117)58.3%です。7月1日の国土交通省の「川上ダム維持方針」発表では規模を縮小して実施するとのことですが、今後どのくらいの国民の税金を投入するのか全く不明です。本当に国民のためになるダム建設でしょうか。サラリーマンへの大増税、老人には高齢者控除の廃止、さらに老人医療の1割負担を3割にするというような話も聞かされてくる昨今です。納税者庶民からは増税せず、国民が納める税金は国民の為に使ってもらいたいものです。大滝建設会社のためのダム作りは止め、むだづかいといわれる批判を謙虚に受け止めるべきです。



自然との共生は時代の流れ



川上ダム中止の声をさらに大きく

川上ダム建設の中止を求めます

将来の自然環境を大切にするため、共に力を合わせましょう

七月一日、いきなり国土交通省近畿地方整備局は、淀川水系五ダムの川上ダムについて「川上ダムは、一、前深瀬川、木津川、淀川の洪水調整、二、流水の正常な機能の維持、三、三重県伊賀用水の新規利水、以上の目的のため事業を実施する」と方針を発表しました。

伊賀・水と緑の会は、たんに近畿地方整備局に六項目の申し入れを行いました。(申し入れ文書要約)

- 三項目の目的がまったく理解できません。
- 淀川水系流域委員会の審議をふまえてダムのあり方を再考してください。
- 自然摂理を重んじ、住民の声に随う、河川整備計画策定を期待します。
- 川上ダム計画の地質、岩倉鉄線通盤、費用、自然環境などの説明責任を果たしてください。
- 自然環境を破壊して人間の生存はないと考えます。
- 今後の審議では近畿地方整備局は住民の意見に誠実に答えてください。



伊賀市民の声

難しい数字やデーターは私には何も解かりません。

喉、思うのです。山を削り、谷を埋め、沢山の生き物の命を奪ってダムを造ったとて、得をするのは人間だけです。

人間だけの利益ばかり追い求めてきた結果、地球はスタスタに傷つきました。もう少し、質素な生活に戻りましょう。

自然に優しく接すれば、自然も再々牙をむくことはないでしょう。

水と緑は伊賀の誇りです。

山にコンクリートはもう沢山です。ダム建設の費用を堤防や河床の補修・森林の育成に当てるなど、あるがままの自然の中で知恵を絞りましょう。

今、私達が歯止めをかけなければ後世に大きな負を残します。私達が子孫に残せるのは近代的な文明よりもその土台となる自然との共生の心です。

川上ダムは、断じていりません。

(二〇〇四・十二・五 淀川水系流域委員会)

ダム(住民の意見を聞く会)発表)

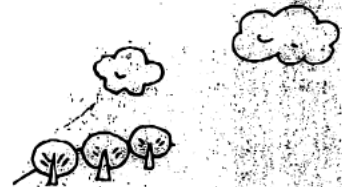
伊賀・水と緑の会入会のおさそい

伊賀地域の住民が、伊賀の歴史・伝統・文化・風土・自然などを学び、会員相互が「水と緑」にふれあひながら親睦を深め、人間と自然が共存できる持続可能な社会の実現をめざし活動しています。

☆ご連絡いただければ例会のご案内をお送りします。

☆年会費 1,000円

☆郵便振替 00800・5・34338 伊賀・水と緑の会



発行 : 伊賀・水と緑の会
〒518-0226 青山郵便局私書箱02号
事務局 TEL/FAX 0595-52-1183
Eメール : mtom_iga@hotmail.co.jp

『岩倉峽の疎通量のことについていつ迄嘘をつき続けるのか』

'05.8.1

自然愛・環境問題研究所
総括研究員 浅野 隆彦

上野北西部の浸水被害軽減の為に、わざわざ川上ダムをつくる必要はないし、代替施設も無用である。「川上ダムの調査検討（とりまとめ）」＝平成 17 年 7 月 21 日版＝内の氾濫シュミレーションは全て根底からマチガイなのだ。

◎その訳 1. 岩倉観測所地点にて昭和 48 年から 22 年分の実際流量観測値をベースに、河川管理者自身が不等流計算を行ない、平成 5 年《H5-1' 10.5m 水位（計画高水位にあたる）3,630.61 m³/s、H5-2' 8.81m 水位 2,700 m³/s、H5-3' 6.75m 水位 1,800 m³/s の流量となることを確認している。

〔参考資料 A-1 「観測流量表」参照のこと〕

私は全ての観測流量表から水位流量実測値を岩倉観測所地点横断面測量図にプロットし、上記 H-Q 曲線の適合度を検証してみた。プロットが重なるところを除いているが、明らかに適合している。〔参考資料 A-2 「水位流量曲線図」〕

更に平成 6 年度以降の河道改修で横断面が拡大し、結果として同水位に於て流量が増加している筈である。

〔参考資料 B-1、B-2 「横断面図」〕

◎その訳 2. 昨年 11 月 10 日、第 8 回ダム WG 会議にて「各ダムに関する既往最大流量について」とする説明資料が提示された。〔参考資料 C 「島ヶ原上流域の降雨及び流出量」〕

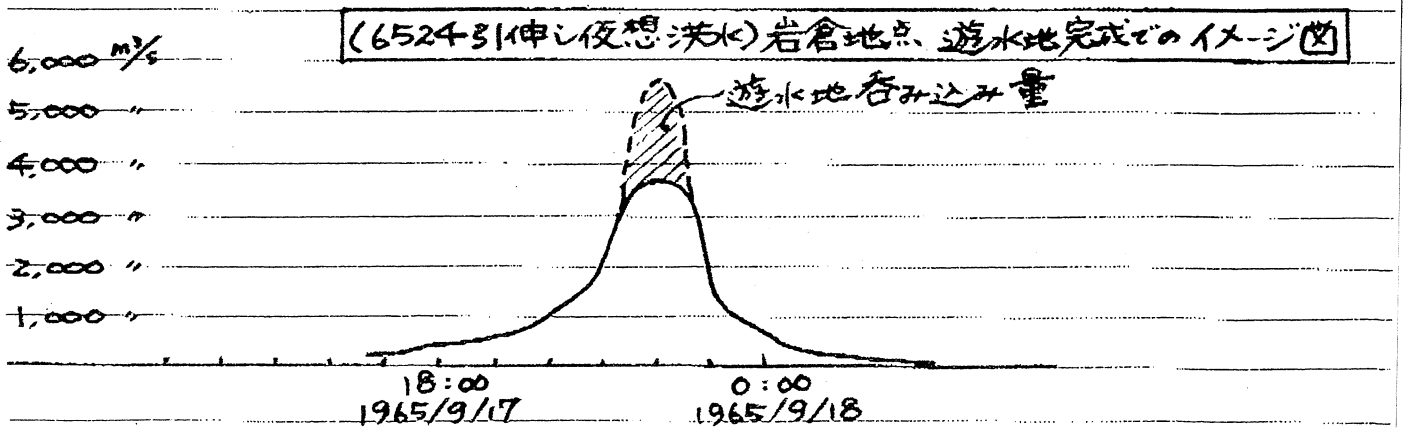
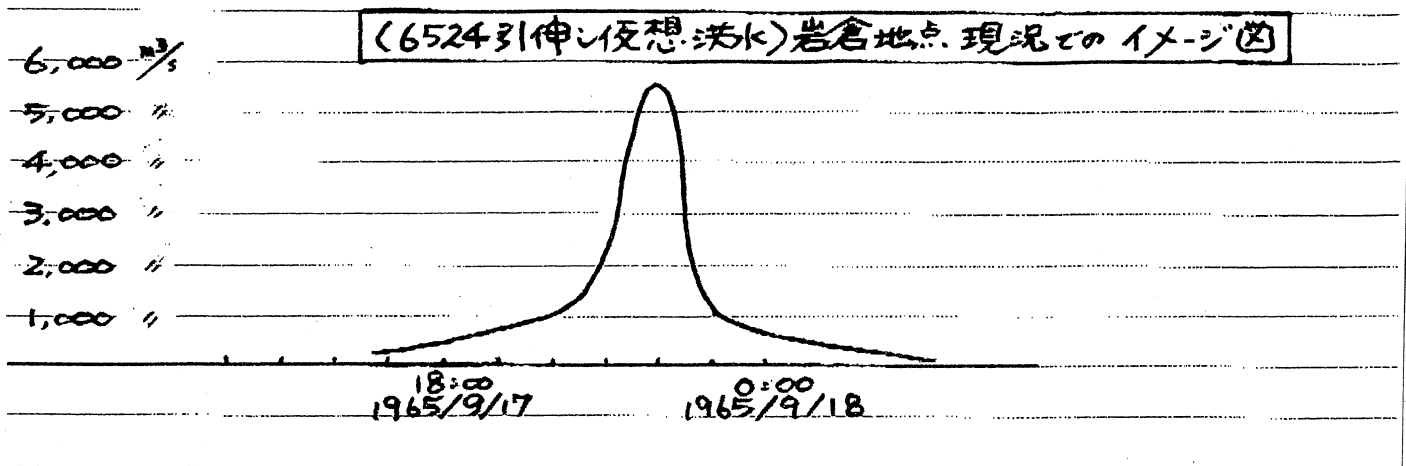
この資料は、気象の自然科学を無視した「異常引伸ばし仮想洪水」のトリック数値ではあるが、計らずも真の岩倉峽疎通量（現況）に近い流出計算値が表出している。

島ヶ原地点ピーク流量 4,149 m³/s（到達量）がそれである。岩倉観測所地点での島ヶ原地点迄の残流域は 4.39%あるので、単純にその割合を差し引くと、《4,149 - (4,149 × 0.0439) ≒ 3,967 (m³/s)》。すなわち岩倉観測所地点では 3,967 m³/s の疎通量が認められるということである。この時の岩倉観測所地点へ壁立てで、漏れなく押し寄せる流出計算値としてのピーク流量は《5,887 - (5,887 × 0.0439) ≒ 5,629 (m³/s)》。

◎その訳 3. 以上の疎通量に上野遊水地の働きを合算してみると、(6524 引伸ばし仮想洪水) に於ても氾濫が起らないことが明らかである。総延長 4km、E.L136.6mH の越流堤を備えた上野遊水地（湛水量 900 万 m³/s）完成が条件である。

3 支川各々の遊水地直前のハイドログラフは不明として、岩倉観測所地点計画高水位

E.L136.9m より平均して 30cm 低い越流堤にピーク時の洪水波はすぐさま吸い込まれ、遊水地がない現況でのピーク流量で表現すれば、以下のようなになるハイドログラフは大きく変容する。上図から下図となる。



上記のハイドログラフイメージを数値として示すと以下のようになる。

$$\textcircled{1} \left\{ \begin{array}{l} \langle 5,629 - 3,630 = 1,999 \text{ (m}^3/\text{s)} \cdot \text{疎通量を } 3,630 \text{ m}^3/\text{s} \text{ とした場合の逆流量} \rangle \\ \langle 9,000,000 \div 1,999 \doteq 4,502 \text{ (s)} \cdot \text{逆流量を湛水総量まで呑み込める時間} \rangle \end{array} \right.$$

$$\textcircled{2} \left\{ \begin{array}{l} \langle 5,629 - 3,967 = 1,662 \text{ (m}^3/\text{s)} \cdot \text{疎通量を } 3,967 \text{ m}^3/\text{s} \text{ とした場合の逆流量} \rangle \\ \langle 9,000,000 \div 1,662 \doteq 5,415 \text{ (s)} \cdot \text{逆流量を湛水総量まで呑み込める時間} \rangle \end{array} \right.$$

①及び②で、3,600 (s) = 1 時間を上回る呑み込み時間があれば、疎通量を上回る流量が確実に遊水地の腹に収まる。そして、完全に氾濫なく洪水は終るのである。

引伸ばし仮想洪水として最大の (6524 引伸ばし降雨) での検討を行ったが、全くもってこのような降雨は考えられない。しかし、それであっても、真の岩倉峽疎通量+ピークカット特化遊水地働き量で氾濫とはならないのである。

平成 5 年の不等流計算書と平成 16 年 11 月 10 日付引伸ばし降雨 10 洪水での流出計算書を説明資料として提出するよう求める。

◎その訳 4. 「岩倉 (57.4K) の地点の水位と流量の関係について」=平成 16 年 12 月 20 日版=に記された水位流量曲線は 2 つ共、実際の流量観測値に適合しない曲線である。〔参考資料 D-1 「岩倉 (57.4km) 地点水位流量曲線図」〕

全ての流量観測値を網羅した〔参考資料 A-2 「水位流量曲線図」〕に 2 つの曲線を落としてみるが、2 つ共低水位観測群から外れていくのが歴然としている。不自然である。〔参考資料 D-2〕

「淀川水系 5 ダムについての方針に対する各委員からの質問」=平成 17 年 7 月 25 日版=中に今本副委員長が H-Q 曲線について疑義を表明しておられるが、これについては、昨年 6 月から 3 転 4 転説明が変わっているところでもあり、徹底的な究明が必要であり、恣意的に岩倉峽疎通量を小さく見せているとする疑惑が強まっている。〔参考資料 D-3〕

〔参考資料 A-1〕 観 測 流 量 表

観測所番号
60453

平成 5 年 (1993)

水 系		淀 川	河 川	木 津 川		観 測 所		岩 倉		
年間 番号	月 日 時	水位(基準) (m)	流 量 (m ³ /sec)	流速測 定方法	流 速 測線数	水面巾 (m)	断面積 (m ²)	水面勾配 1/	平均流速 (m/sec)	√Q
1'	H.5 不等流	10.50	3630.61							60.25
2'	..	8.81	2700.00							51.96
3'	..	6.75	1800.00							42.43
17'	H.1 8. 2.10	3.40	608.76	浮子	4	85.45	234.14	1/357	2.60	24.67
18'	8. 2.11	3.67	667.64	〃	4	88.31	256.81	1/417	2.60	25.84
19'	8. 2.13	3.74	731.61	〃	4	90.88	263.97	1/357	2.77	27.05
20'	8. 2.14	3.53	637.14	〃	4	87.36	246.28	1/313	2.59	25.24
24'	8. 27.11	3.22	563.02	〃	4	84.57	216.29	1/625	2.60	23.73
25'	8. 27.12	2.98	517.69	〃	4	83.46	196.12	1/625	2.64	22.75
26'	H.2 9. 20. 5	4.82	938.11	〃	5	115.55	378.70	1/556	2.48	30.63
33'	11. 30. 23	3.89	711.19	〃	5	100.49	279.53	1/500	2.54	26.67
23'	H.3 8. 31. 3	3.84	660.27	〃	4	98.88	271.17	1/125	2.43	25.70
24'	8. 31. 6	3.25	541.82	〃	4	85.78	217.20	1/166	2.49	23.28
25'	8. 31. 7	2.58	441.39	〃	4	82.10	161.33	1/125	2.74	21.01
26'	8. 31. 8	2.17	344.86	〃	4	79.26	127.82	1/166	2.70	18.57
27'	8. 31. 10	1.73	246.74	〃	3	68.62	97.27	1/556	2.54	15.71
28'	8. 31. 11	1.46	191.36	〃	3	52.67	79.39	1/625	2.41	13.83
13	H.5 7. 5. 7	4.23	856.27	〃	4	114.42	311.61	1/1250	2.75	29.26
14	7. 5. 8	4.31	796.43	〃	4	114.83	317.67	1/1250	2.51	28.22
15	7. 5. 10	3.67	635.42	〃	4	90.55	251.40	1/1250	2.53	25.21
16	7. 5. 11	3.07	490.62	〃	4	83.95	199.25	1/1250	2.46	22.15

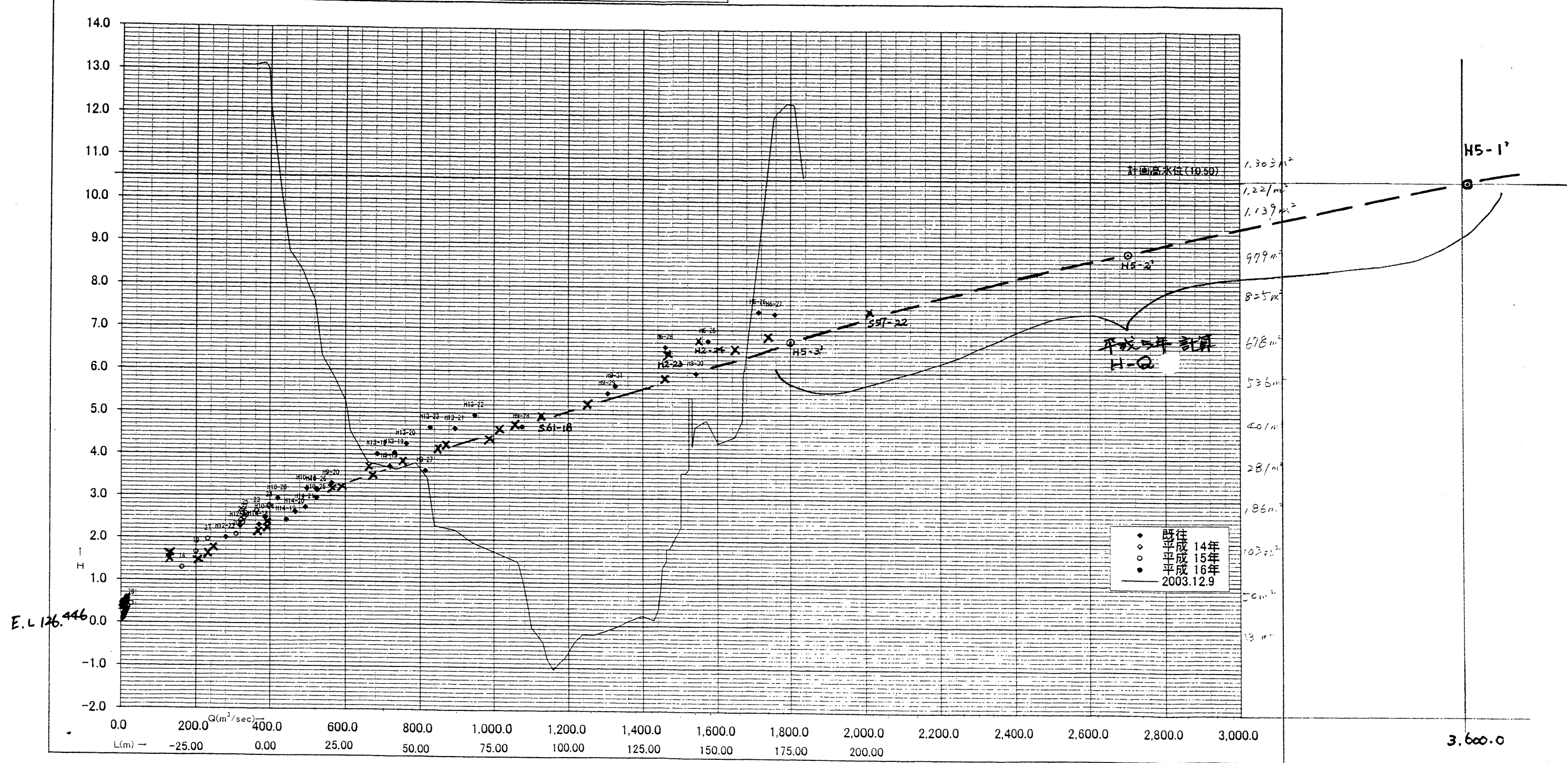
〔参考資料 A-2〕 水位流量曲線図

種別	観測所記号
2	136216047306

水系名	淀川	河川名	木津川	観測所名	岩倉	読み	いわくら
-----	----	-----	-----	------	----	----	------

(全水位)

平成 15 年 (2003)

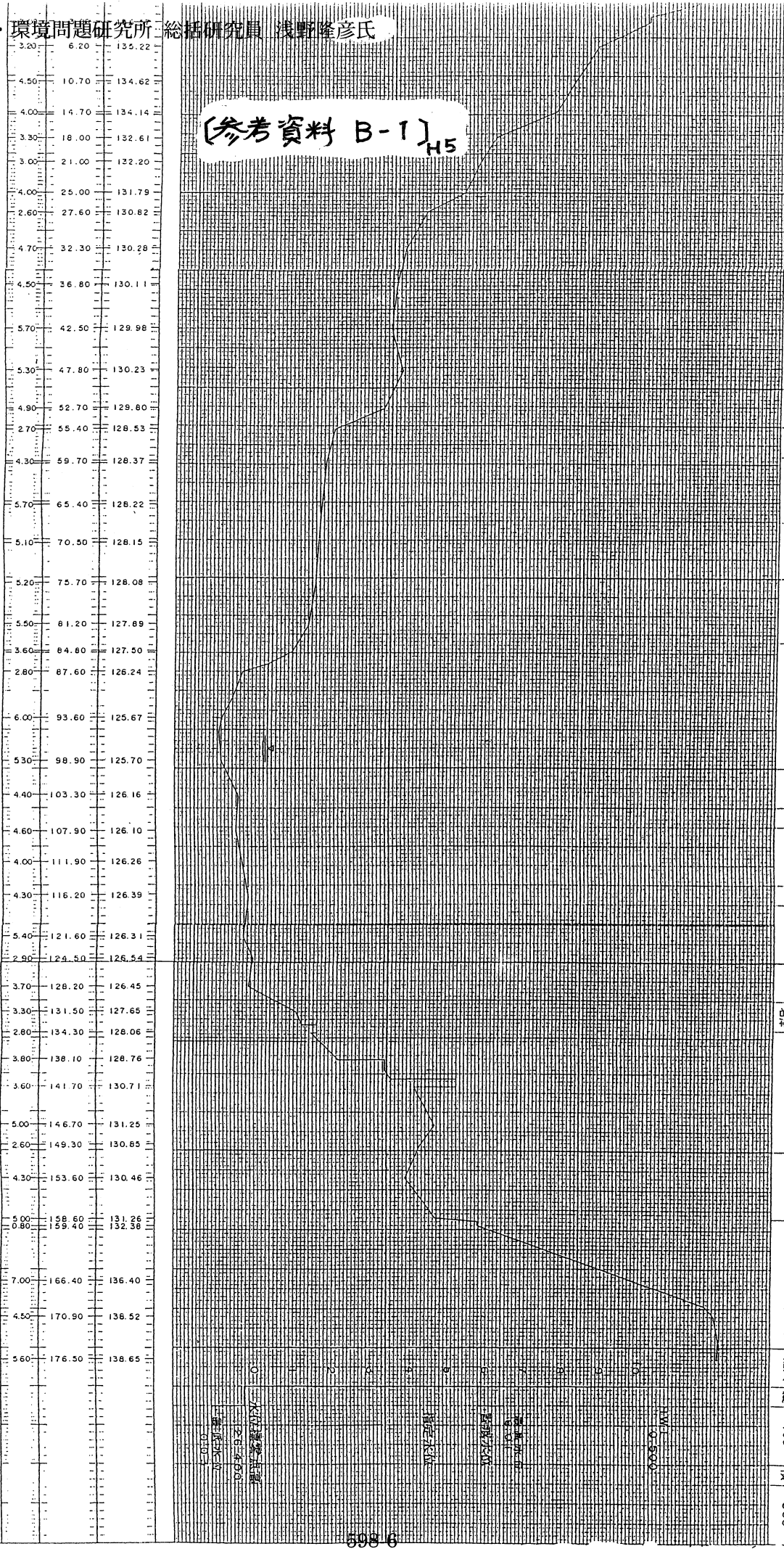


横断面図

[参考資料 B-1] H5

CHART NO. S-914 (水質様式 測定-1A)

CHART NO. S-914 (水質様式 測定-1A)

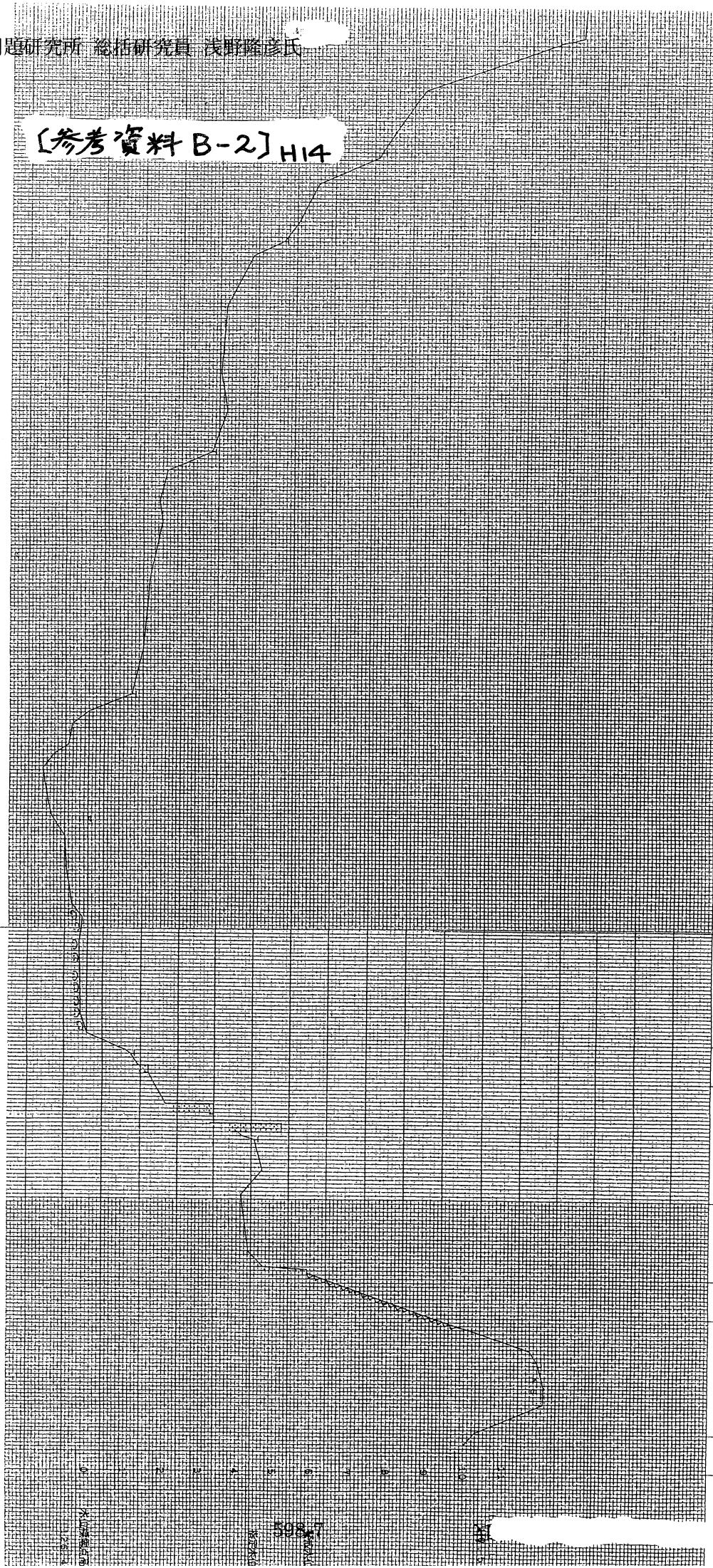


横断面図

598 自然愛・環境問題研究所 総括研究員 浅野隆彦氏

[参考資料 B-2] H14

L1	5.50	5.90	135.29
	3.60	9.50	134.77
	4.50	14.00	134.18
	4.10	18.10	132.56
L2	4.90	23.00	132.05
	2.50	25.50	131.66
	1.90	27.40	130.85
	6.50	33.90	130.16
	8.50	42.40	130.03
L3	4.80	47.20	130.19
	5.36	52.56	129.82
	2.50	55.06	128.62
	3.60	58.66	128.42
	2.90	61.76	128.50
	7.50	69.26	128.18
	9.50	78.76	127.89
L4	5.77	84.53	127.71
	2.30	86.83	126.60
	1.70	88.53	126.18
	2.70	91.23	126.07
	1.20	92.43	125.68
	1.80	94.23	125.39
	1.50	95.73	125.44
	2.60	98.33	125.54
	1.90	100.23	125.64
	2.80	103.03	126.01
	3.90	106.93	126.04
	4.80	111.73	126.19
	1.80	113.53	126.47
	3.40	116.93	126.39
	4.00	120.93	126.42
	5.30	126.23	126.44
L5	2.60	128.83	126.60
	2.65	131.46	127.74
	1.50	132.98	127.94
	4.90	137.88	128.67
L6	3.60	141.48	130.60
	1.01	142.49	131.07
	3.60	146.29	131.25
	3.10	149.39	130.71
	7.20	156.59	130.92
	1.90	158.45	131.32
L7	7.99	166.48	136.69
	2.70	169.18	136.29
L8 (B2A)	1.93	171.11	136.51
	2.75	173.86	136.67
	2.20	176.06	136.65
	3.80	179.86	136.67
	1.65	181.51	136.60



河川名	木津川
観測所名	若倉(1)
位置	598
測量年月日	平成14年 11月15日
縮尺	縦 1000 横 500

598.7

[参考資料C]

引き伸ばし後の洪水に該当するのは川上ダム関連だけである
 島ヶ原上流域の降雨及び流出量

洪水名	略称	洪水発生日	実績洪水			引き伸ばし後の洪水			
			2日間雨量(mm) (島ヶ原上流域)	島ヶ原地点 ピーク流量(m ³ /s) (流出計算値・現況)	島ヶ原地点 ピーク流量(m ³ /s) (流出計算値・現況壁立)	降雨引伸し率	引き伸ばし後の2 日雨量(mm)(島ヶ 原上流域)	島ヶ原地点ピーク 流量(m ³ /s)(流出 計算値・現況)	島ヶ原地点ピーク 流量(m ³ /s)(流出 計算値・現況壁 立)
昭和28年8月豪雨	531降雨	8月14～16日	192	2,036	2,643	1.66	319	4,040	5,177
昭和28年台風13号	5313降雨	9月24～25日	299	3,054	3,730	1.07	319	3,326	4,086
昭和34年台風15号	5915降雨	9月25～26日	312	2,521	3,006	1.02	319	2,625	3,071
昭和36年10月豪雨	1028降雨	10月26～28日	280	2,549	3,111	1.14	319	3,145	3,663
昭和37年台風14号	6214降雨	8月24～26日	220	1,946	2,735	1.45	319	3,768	5,305
昭和40年台風24号	6524降雨	9月16～17日	205	2,162	2,983	1.56	319	4,149	5,887
昭和47年台風20号	7220降雨	9月13～17日	198	2,047	2,645	1.61	319	3,945	5,373
昭和57年台風10号	8210降雨	7月31日～8月3日	319	2,143	2,443	1.00	319	2,143	2,443
平成2年19号台風	9019降雨	9月14～20日	204	2,116	2,800	1.56	319	3,886	4,959
平成6年26号台風	9426降雨	9月26～29日	206	2,003	2,689	1.55	319	3,769	4,807

※島ヶ原地点ピーク流量(流出計算値)の上位10洪水を抽出した。

※島ヶ原地点ピーク流量(流出計算値・現況)は、現在の河道で、上流の氾濫(県管理区間、直轄区間、上野地区遊水地未完成での氾濫)を考慮に入れた島ヶ原地点での到達量である。

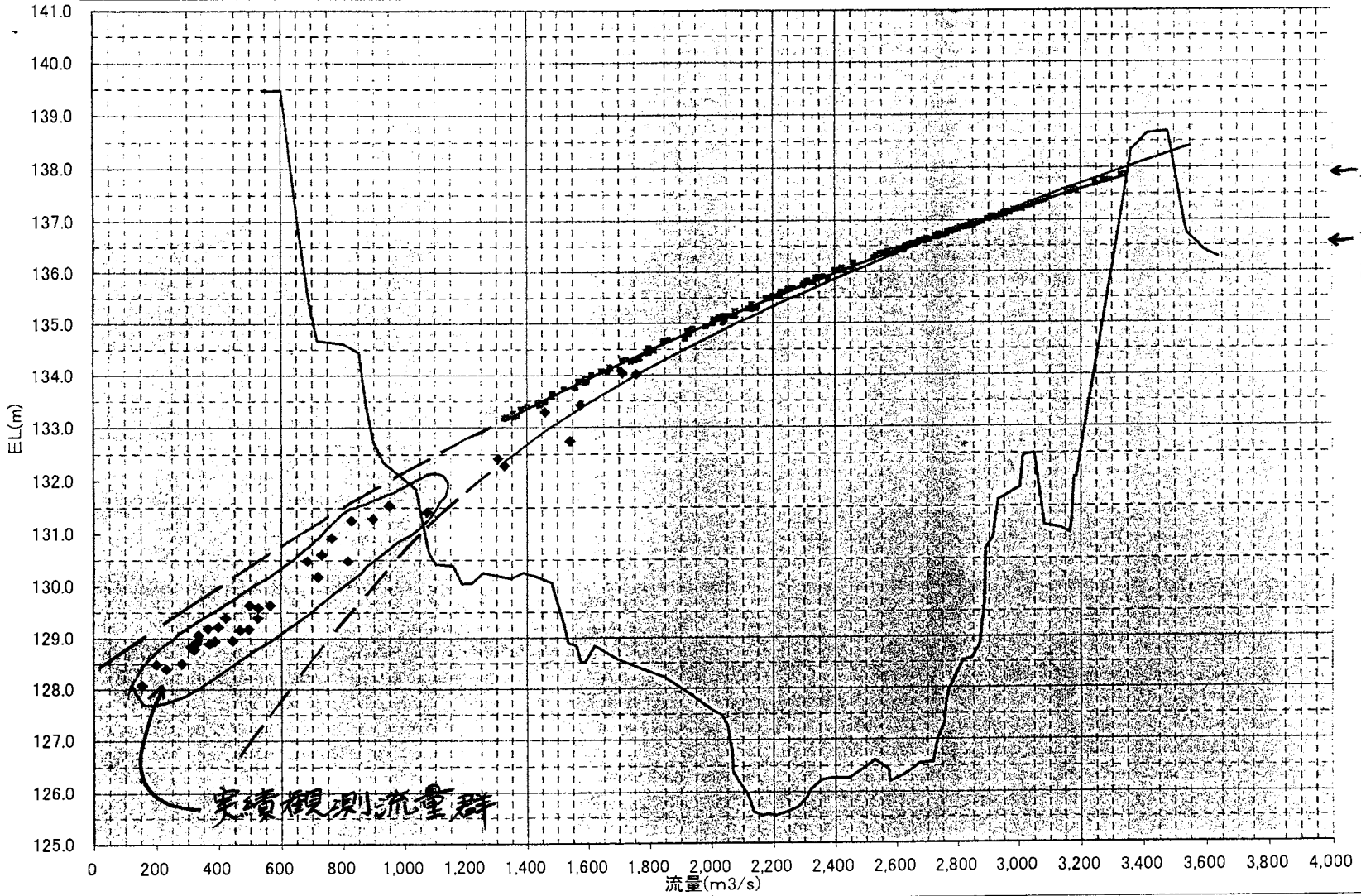
※島ヶ原地点ピーク流量(流出計算値・現況壁立)は、現在の河道で、上流の氾濫が無い場合(県管理区間壁立て、直轄区間壁立て遊水地無し)の島ヶ原地点での到達量である。

※洪水発生日は、枚方上流域での降雨開始から終了までを示す。

598-8

岩倉(57.4km)地点水位流量曲線図

- ◆ 流量観測値
 - 今回見直しを行った水位流量曲線
 - 見直し前の不定流計算結果(10洪水319mm引き延ばし雨量、遊水地完成、河道掘削)
 - 横断
 - 見直し前の不定流計算結果に基づく水位流量曲線図(10洪水319mm引き延ばし雨量、遊水地完成、河道掘削)
- ※ 水位流量破線延長部分、その他書込みは浅野による。



[参考資料 D-2]

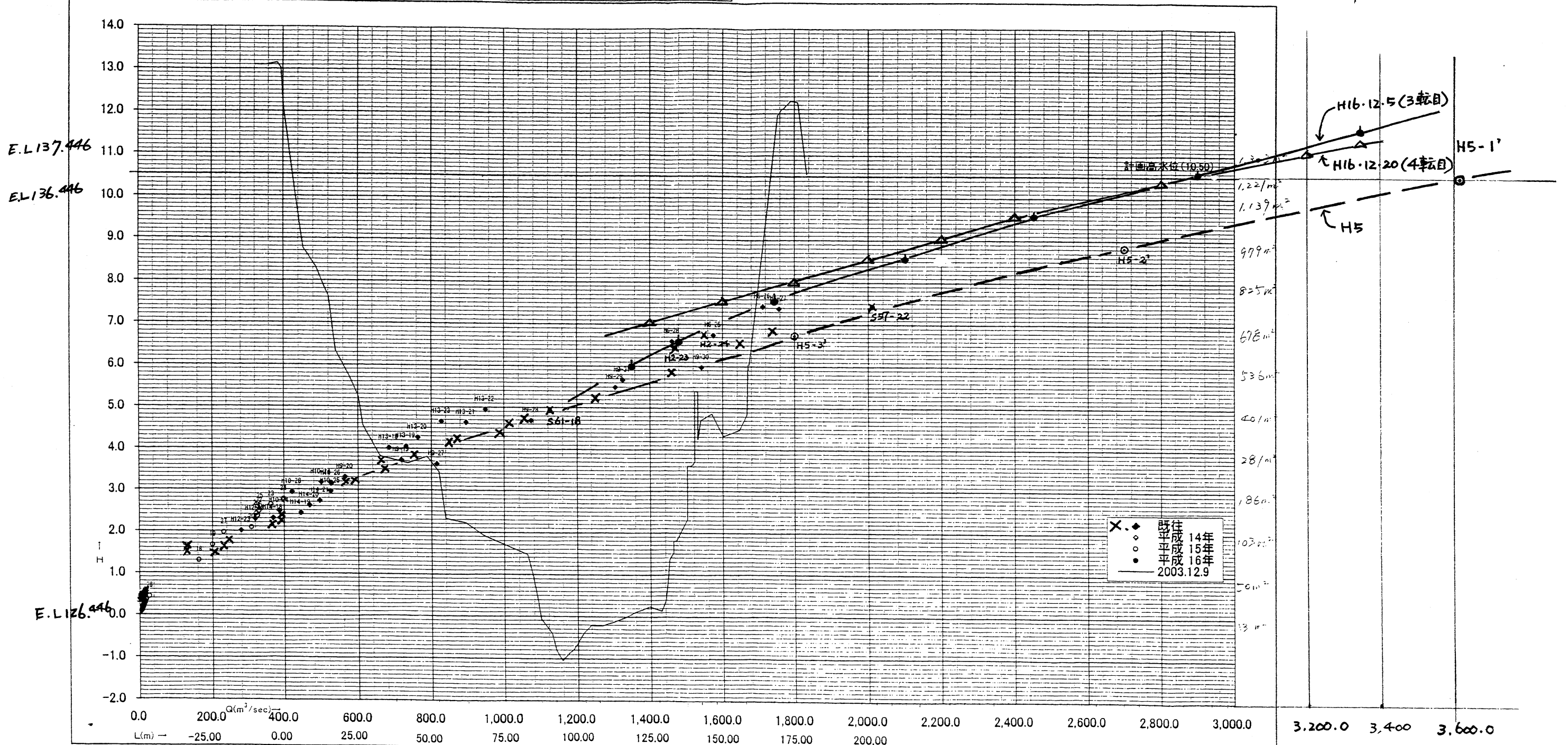
水位流量曲線図

種別	観測所記号
2	136216047306

水系名	淀川	河川名	木津川	観測所名	岩倉	読み	いわくら
-----	----	-----	-----	------	----	----	------

(全水位)

平成 15 年 2003



※ H16-12.5 及び H16-12.20 版の2つの曲線共、観測実績値とひどく乖離し不自然であり、H5の曲線が正解であることが一目でわかる。(浅野)

※ 河道掘削計画で平均河床が約2.5m下るので、疎通量増大は現況高水位でもって 136 m³/s 以上となる。(浅野試算)

〔参考資料 D-3〕

淀川水系流域委員会副委員長 今本氏の疑義

⑨ としているが、委員会では岩倉峡流入部の最も狭い部分を小開削すれば、洪水時の岩倉峡上流域の水位が若干なりとも下げられると考えられるので検討すべきであると提案し、木津川上流河川事務所調査・検討を行ってきたと聞いている。その結果については未だ委員会に報告されていないが、このような重要な事柄の調査・検討の報告が未だに行なわれないのはなぜか？（川上聡委員）

P9 (I) 治水において、岩倉地点におけるH～Qの関係が触れられていませんが、どのようにして推定したのですか。岩倉地点におけるH～Q実績に推定曲線を当てはめる方法を用いたのであれば、推定曲線

10

の式と適合度を示してください。また、島ヶ原地点のH～Q曲線を出発点として水面形を追跡して岩倉地点におけるH～Q曲線を推定したのであれば、島ヶ原地点のH～Q曲線も推定に過ぎないうえに、水面形の追跡過程に水理学的にみて重大な誤りを含んでいる可能性があります。これらの疑問についての説明をお願いします。（今本博健委員）

P9 ~ P10 ・河川管理者が地元で約束した治水安全度（既往最大規模の洪水：既往実績降雨の中の最大雨量が、既往の様々な降雨分布で今降った場合に想定される最大洪水量）をダムなしで実現するための代替案を、次の2案とする。

B案＝遊水地＋上流の河道掘削＋新遊水地＋岩倉峡最小限掘削＋下流の河道掘削

C案＝遊水地＋上流の河道掘削＋岩倉峡最小限掘削（親遊水地なし）＋下流の河道掘削

（注1） 上流とは木津川上流、下流とは木津川下流をいう。

（注2） C案の岩倉峡最小限掘削は、新遊水地がない分だけ B案に比べて掘削規模は大きくなる。

①B案、C案の場合、岩倉峡の掘削により、それぞれ最小限現状より流下能力をどれだけ高めねばならないか。

②同じく B案、C案の場合、木津川下流の水位は、それぞれ河道の狭いところで何cm、広いところで何cm上昇するか。

③A案＝ダム＋遊水地＋上流の河道掘削とダム代替案B案、C案のそれぞれの総事業費はいくらか。なお、ダム事業費はこれからダム事業完成までに要する事業費とする。（参考までに、ダム事業でこれまでに使った事業費はいくらか。）（千代延明憲委員）

利水
3. (2)

P10 ② ・水需要の精査確認の観点から、川上ダムから撤退見込みの利水者は水利転用を考えています。これら利水者の考えに対する河川管理者の水利転用の考えをまとめて具体的に聞かせてください。

（荻野芳彦委員）

・川上ダムの予定されている利水容量と水利権の対象となる基準点の基準濁水流量はいくらですか。

（荻野芳彦委員）

・岩倉狭での濁水流量はいくらですか。川上ダムに予定されている三重県の上水道を岩倉狭の上流地点で取水することは可能か。もし、濁水流量に不足するのであれば、不足分を青蓮寺ダム等で水利調整を行うことが出来ると思われる。（荻野芳彦委員）